

南木曾町観光振興計画 (案)

はじめに

通過型観光地から滞在型観光地への転換による 「持続可能な観光立町の推進」

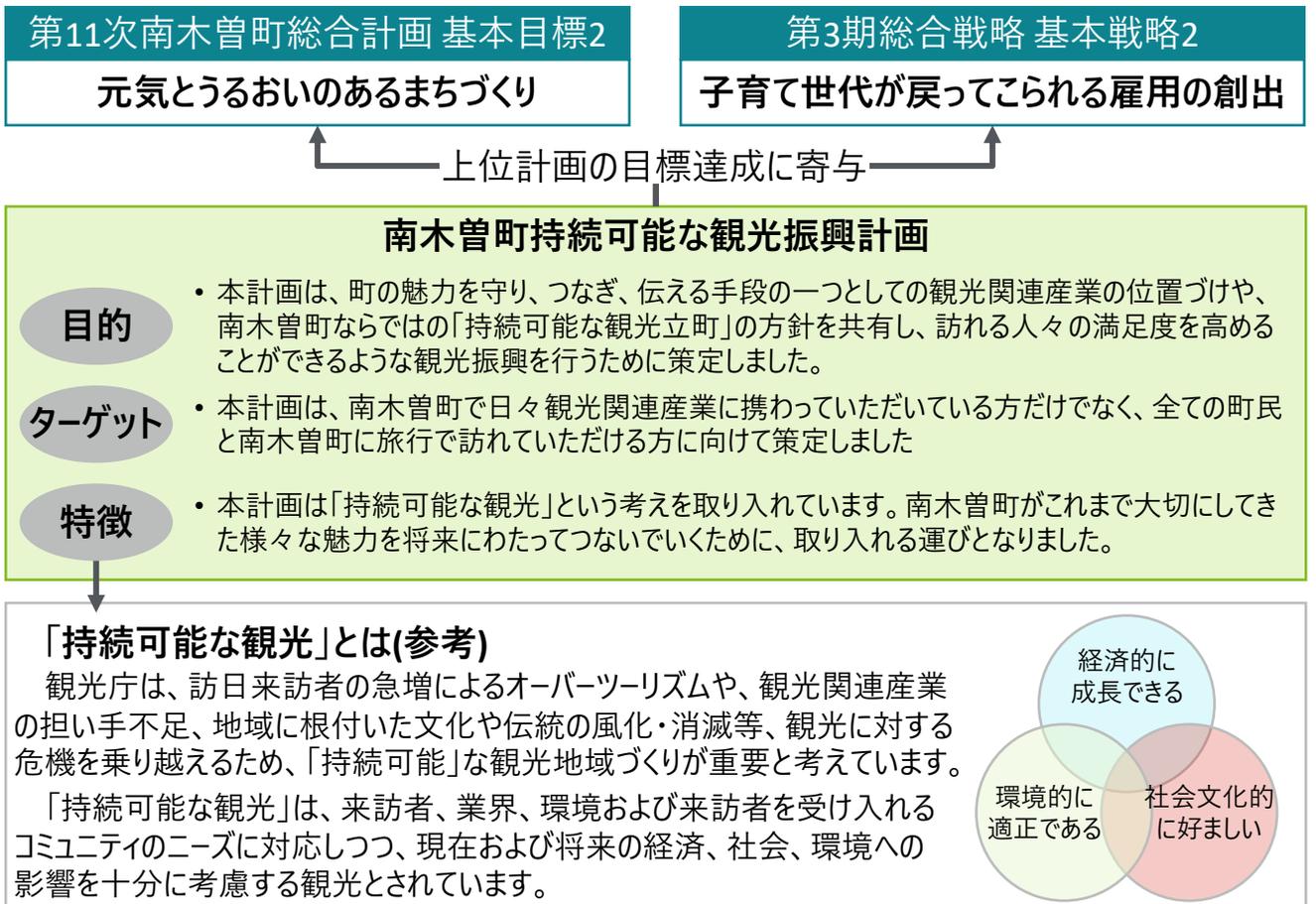
観光は、宿泊業や飲食サービス業だけに留まらず、小売業や農業、水道・ガス・電気、運送業や交通事業者などあらゆる産業への経済波及効果が大いだとされており、経済・社会基盤の脆弱化が進行する地方部では雇用を生み出し、脆弱化に歯止めを掛ける重要な役割を担う産業です。

南木曾町は、全国最初の重要伝統的建造物群保存地区に選出され江戸時代の町並みが残る「妻籠宿」、国指定史跡の「中山道」などの文化遺産があり、これらは2016年(平成28年)に文化庁の日本遺産「木曾路はすべて山の中ー山を守り山に生きるー」として認定されました。このような恵まれた資源を活用した観光関連産業は、町の主要な産業に位置づけられています。また、観光関連産業は、町内産業の中で「金属製品」、「木材・既製品」に次ぐ規模を有しており、町の産業を支えていると言えます。

第11次南木曾町総合計画では、「基本目標2：元気とうるおいのあるまちづくり」を実現する施策の1つとして観光が位置付けられており、総合戦略では基本戦略2の基本目標である「町独自の地域資源を活かした魅力のある新しい雇用を創出し、安心して移住できる労働環境を整備する」ために、**通過型観光地から滞在型観光地への転換に取り組み、観光産業を底上げし、観光立町の推進を図ることが明記されています。**

これらを踏まえて、南木曾町持続可能な観光振興計画は、国内外からの観光客を受け入れる環境づくりと滞在型観光地づくりを、貴重な地域資源を壊さない形で進め、外貨を稼ぎ、地域へ還元することで持続可能な観光地づくりを推進するために策定しました。

出所：南木曾町 第11次南木曾町総合計画策定にかかる基礎調査報告書、第11次南木曾町総合計画、第3期南木曾町地方創生総合戦略



出所：観光庁 日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)

Vision

南木曾町の豊かな自然と、
そこに息づく歴史的な暮らしを
守り、つなぎ、伝えていくことで
「住んでよし」「訪れてよし」の持続可能な町へ

Statement

田立の滝や柿其溪谷、木曾五木などの自然資源や
江戸時代の風景が残る宿場町といった
南木曾ならではの魅力と価値を活かし、
町民の心地よい生活と来訪者の満足が両立する
観光の町を目指します。

観光ビジョンに込められた想い

観光ビジョンの検討にあたっては、町内の観光振興に関わる委員の皆様から数多くの意見をいただきました。頂いたご意見を踏まえつつ、南木曾町として町民の皆様にもできるだけ分かりやすく、南木曾らしさが伝わるよう、自然や歴史などの要素を意識して作成しました。

南木曾町の根幹には、豊かな自然の中で営まれてきた人々の暮らしがあり、そこから町の歴史や文化が生まれてきたと考えています。そのため、自然と人々の暮らしを将来にわたって大切にしていくという視点から、失われないように「守り」、次の世代へ「つなぎ」、外へ向けて「伝えていく」ことで、「住んでよし」「訪れてよし」と感じられる町を目指すという想いをビジョンに込めました。

南木曾町ならではの魅力を補足しつつ、委員の皆様から意見の多かった資源の活用や体験を「活かし」という表現で、持続可能な観光の観点から観光客を「来訪者」と表現しました。町民の暮らしを大切にしながら、訪れる人々の満足度が高まる観光の町を目指すことを狙いとしています。

～観光ビジョン達成のための目標指標～

観光ビジョンに掲げた持続可能な観光地づくりを推進するために、観光振興によって生まれた経済効果を具体的かつ継続的に把握し、その効果を町民の皆様に実感していただくことで、観光振興の好循環を生み出す必要があります。

そのためには、明確で分かりやすい目標設定と、その達成状況を継続的にモニタリングすることが重要です。そこで、観光振興計画全体を通じて目標とする数値を「最上位目標指標」として設定します。加えて、最上位目標指標の下には、各重点プロジェクトごとの「目標指標」を設定します。

最上位目標指標は、2031年にコロナ前(2019年)水準へ回復することを目安として、旅行市場の変遷等を踏まえて、「量」から「質」への転換を進めていきます。

最上位目標指標 (KGI)

<目標指標名>	<現状>	<中間目標(2031年)>	<目標(2036年)>
1 観光消費額 (1人あたり消費額)	1,804百万円 (3,765円) ※2024年実績	2,500百万円 (4,500円) ※コロナ禍以前を更新	3,500百万円 (5,500円)
2 観光入込客数 (延べ人数)	479,100人 ※2024年実績	551,800人	620,000人 ※コロナ前(2019年)同水準
3 宿泊者数 (延べ人数)	122,200人 ※2024年実績	200,000人 ※コロナ禍以前同水準	300,000人
4 来訪者満足度	— ※実績値無し	30% ※数値新規取得	50%
5 「観光の振興」 に対する 町民満足度	20.9% ※2024年実績	50% ※第11次南木曾町総合計画 目標値と整合	75%

出所：長野県 観光地利用者統計調査結果

南木曾町 第11次南木曾町総合計画策定にかかる基礎調査報告書, 第11次南木曾町総合計画, 第3期南木曾町地方創生総合戦略

第1章：観光振興計画について

南木曾町の観光資源の特徴

江戸時代、南木曾町は京都と江戸を結ぶ中山道における最大の難所「木曾路」の一部であり、妻籠宿と三留野宿が置かれた交通の要衝でした。旅人たちで宿場は賑わい、厳しい自然環境が、山々に守られた独自の宿場文化と歴史的景観を育みました。その面影は、重要伝統的建造物群保存地区となった妻籠宿に今も色濃く残されています。背景にあるストーリーは、大桑村・上松町・木曾町・木祖村・王滝村と共に、「木曾路はすべて山の中～山を守り山に生きる～」のタイトルで日本遺産としても登録されています。

また、柿其溪谷や田立の滝に代表される、豊かな自然資源も豊富に存在しており、南木曾町は文化・歴史・自然とさまざまな観光資源があります。

そのほか、郷土料理や和菓子、地域の自然を活かした魚介・山菜などの食資源も豊富にあり、南木曾町を訪れた人が多様な資源を楽しめる環境が揃っています。

南木曾町の観光資源

南木曾町の代表的な観光資源として挙げられるものは以下のとおりです。

文化

- 木工・ろくろ工芸
- 花馬祭り
- 文化文政風俗絵巻之行列
- 南木曾ねこ
- 南木曾町博物館

歴史

- 妻籠宿・三留野宿
- 島崎藤村、福沢桃介ゆかりの地
- 妻籠城跡
- 一石柝立場茶屋
- 古典庵

自然

- 柿其溪谷
- 田立の滝
- 与川の古道
- 南木曾岳
- 木曾桧
- 天白公園のミツバツツジ
- 馬籠峠
- 男滝・女滝
- 紅葉

食

- 五平餅
- 蕎麦
- 朴葉巻き・朴葉寿司
- 栗菓子
- 川魚・山菜



天白公園の
ミツバツツジ



妻籠宿



与川道



田立の滝

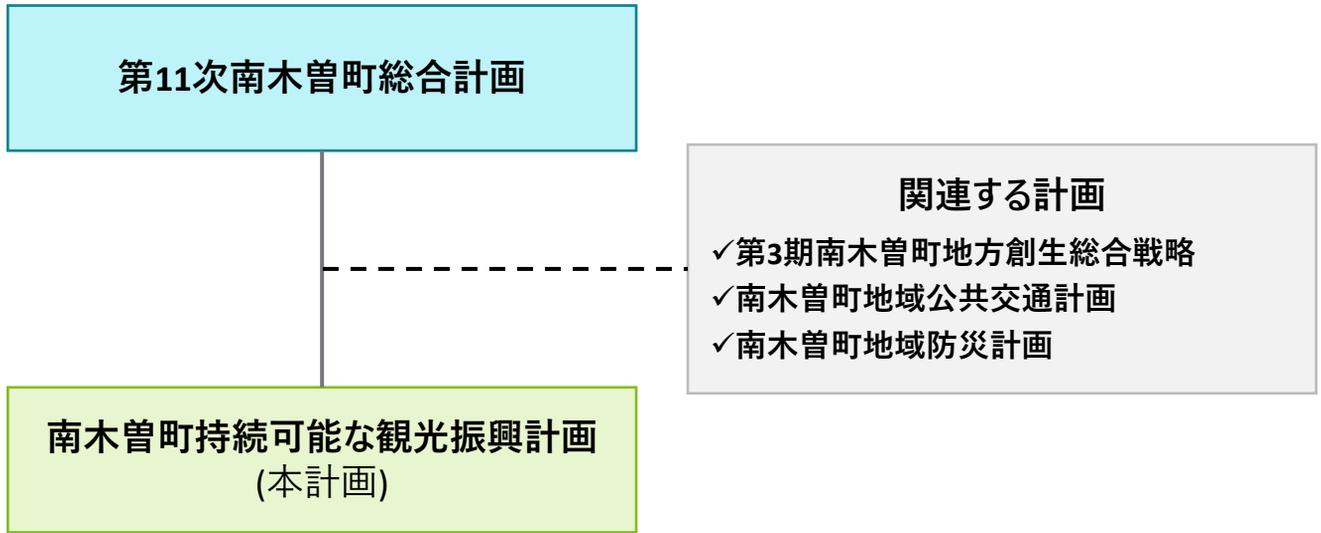


柿其溪谷

本計画の位置付け

本計画は「第11次南木曽町総合計画」を上位計画とし、第3期南木曽町地方創生総合戦略や、南木曽町地域公共交通計画などの計画の内容を踏まえて作成しています。

また、JSTS-D（日本版持続可能な観光ガイドライン）に準拠し、妻籠宿・中山道等の歴史・文化・自然資源の保全と活用が両立した、観光による地域活性化と町民との共生を実現するため、中長期の方針・目標・具体的施策を体系化した計画です。



本計画の計画期間

本計画の計画期間は2026年度(令和8年度)から2036年度(令和18年度)までの10年間とし、5年ごとに各種KPIの進捗点検や、JSTS-Dの再アセスメントを実施し、必要な部分改訂を行います。

また、災害や制度改正、社会情勢の著変時などには、計画の随時見直しを行います。



観光振興の重要性

観光庁が定めている、地方における観光の重要性は以下のとおりです。



1 観光は成長戦略の柱 地域活性化の切り札である

人口減少・少子高齢化が進む中、交流人口・関係人口の拡大は地域の活力の維持・発展に不可欠です。



2 観光は豊かな人生を生きるための活力になる

旅のもたらす感動と満足感は、誰もが豊かな人生を生きるための活力を生み出します。



3 観光を通じて自らの地域に誇りと愛着が強くなる

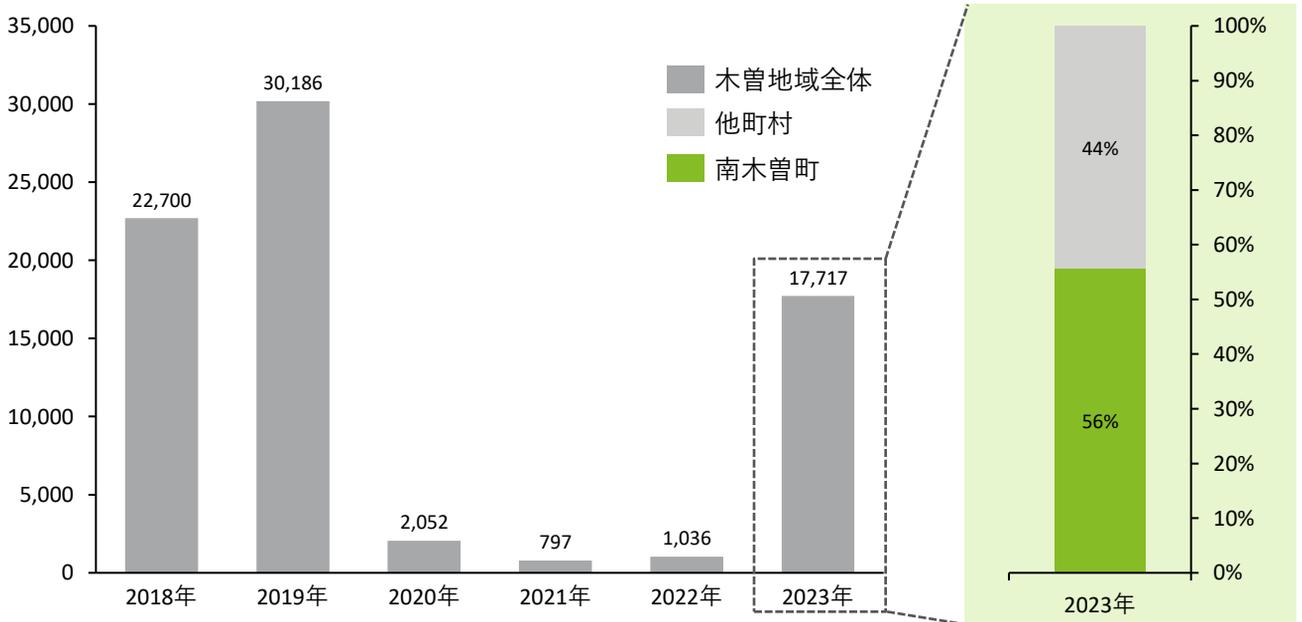
観光を通じて町民が自らの地域に誇りと愛着を感じることで、活力に満ちた地域社会の持続可能な発展を可能とします。



4 観光を通じて異文化の尊重が進む

観光を通じて異文化を尊重し、世界の人々と絆を深めることは国際相互理解を増進する。

南木曾町においても国内の多くの市町村と同様に、人口減少と高齢化が進んでいます。そのような状況の中でも、インバウンドは増加しており、観光産業の更なる発展により地域を盛り上げることが重要です。



持続可能な観光ガイドラインの導入

本計画の策定にあたり、持続可能な観光の実現に向けて、2020年に観光庁が策定した国際基準に準拠した持続可能な観光指標「日本版持続可能な観光ガイドライン(Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations：以下、JSTS-D)」を導入します。

JSTS-Dは、4つの分野と47の大項目、113の小項目から構成されており、持続可能な観光地域づくりを目指していくための大切な指標となっています。本観光計画を、このガイドラインに沿った形で作成することにより、計画の中身を単なる一過性の取組とせず、将来の南木曾町が「住んでよし、訪れてよし」の観光地であり続けることを目指します。



4つのテーマ	確認する項目	項目の例
A 持続可能なマネジメント	✓管理を行う組織が観光地を適切に経営しているか	• 町民参加と意見交換の機会の確保
B 社会経済のサステナビリティ	✓観光が適切に地域経済へ還元されているか	• 観光における経済効果の測定
C 文化的サステナビリティ	✓地域の暮らしと文化を守れているか	• 地域町民のための利便向上
D 環境のサステナビリティ	✓自然環境への負荷を管理できているか	• 省エネ・カーボンニュートラルへの取組

持続可能な開発目標 (SDGs) について

持続可能な開発目標 (SDGs：Sustainable Development Goals) とは、持続可能でより良い社会の実現を目指す国際目標です。

JSTS-Dの導入と併せて、本計画は環境・社会・経済の調和を重視し、SDGsの理念にも沿う形で策定しています。



第2章：南木曾町の観光が抱える課題について

～南木曾町の観光が抱える課題の抽出手法～

本計画を策定するにあたって、南木曾町の観光が抱える課題を抽出しました。抽出は3通りの手法を用いました。南木曾町の観光を取り巻く環境変化の確認は、データやアンケートを用い、持続可能な観光の実現については、JSTS-Dアセスメントにより確認しました。

課題の抽出手法

- 南木曾町の観光を取り巻く環境の変化を第三者的な視点で確認するため、長野県や町が公開している各種統計調査等の結果を分析しました。
- 本分析は、課題を抽出するだけでなく、本計画の目標値の設定にも活用しました。

P16~P19

観光統計等データ分析 (定量調査)



P21~P24

アンケート調査 (定性調査)

JSTS-Dアセスメント

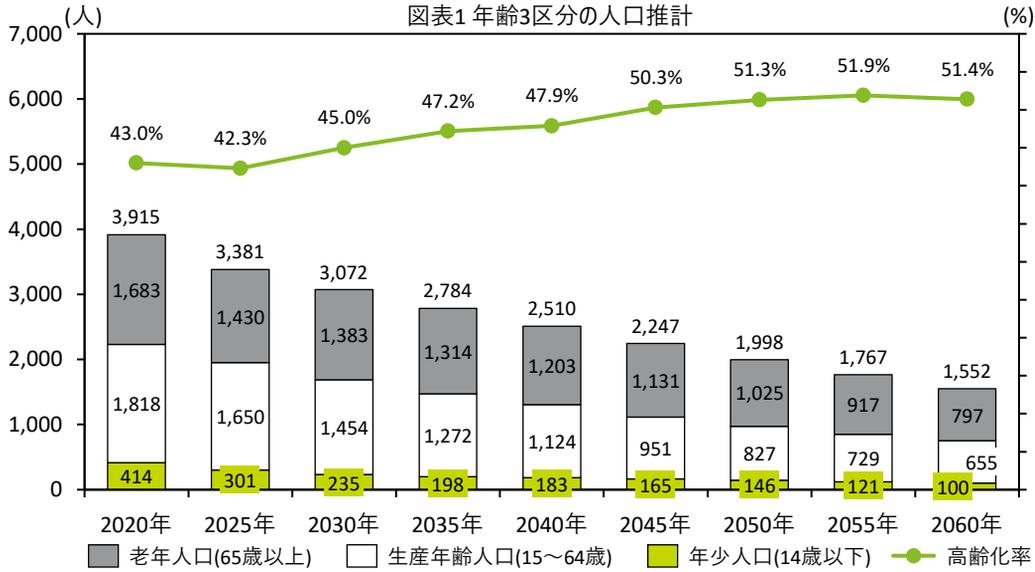
P20



- 町内の観光関連事業者に対して、南木曾町の観光の課題に関するアンケート調査を実施しました。
- アンケートの結果を集計し、特に回答が多かった課題や、町全体で観光振興を行う上で障壁となる課題を抽出しました。
- JSTS-Dに定められている113の項目について、南木曾町の対応状況をアセスメントしました。
- アセスメントの結果と町としての優先度を整理し、取り組むべき課題を抽出しました。

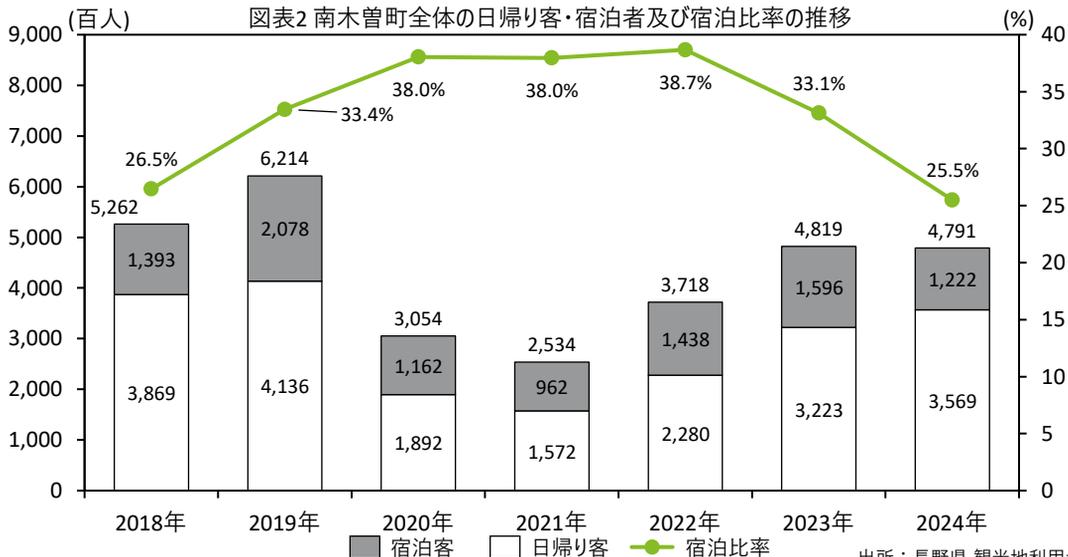
人口減少と少子高齢化と観光振興

- ✓南木曾町の将来人口は、2050年には2,000人を下回り、2020年からの比較で半減する予測です。
- ✓また、生産年齢人口は、2020年は1,818人、2060年には、655人と3分の1に減少する一方、高齢化率は43%から51%と増加し、人口減少と少子高齢化は加速すると予想されています。
- ✓人口減少に伴う地域経済の衰退に歯止めを掛けるためには、交流人口と関係人口を増やすこと、町内の消費単価及び総額を上げていくことが必要であり、町外から人を呼び込み、消費を生み出す観光関連産業は、それらを同時に推進することが出来る重要産業と言えます。



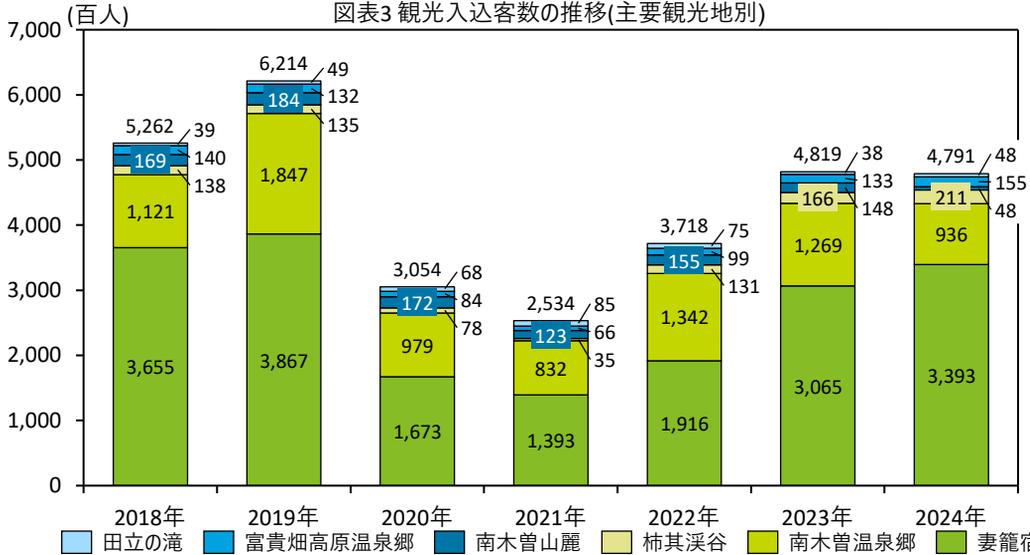
来訪者数の推移と今後の観光振興の方針

- ✓コロナ禍以降(2020年～)、観光入込客数は回復傾向にありますが、コロナ前の水準には回復しきれていません。他方で、単年度における宿泊者数はコロナ前を上回る場合も見られており、宿泊を伴う旅行は一定程度の回復が見られていると考えることが出来ます。
- ✓直近は、日帰り・宿泊者それぞれがコロナ前の水準を安定的に上回ることが1つの指標になりますが、将来的には、持続可能な観光地の推進に向けて、量から質への転換が求められます。
- ✓そのために、特定の観光地への集中ではなく、町内を周遊し、少しでも長く滞在していただくことで、町全体で多くの消費が見込まれるような、「滞在・高付加価値型観光」に注力する必要があります。



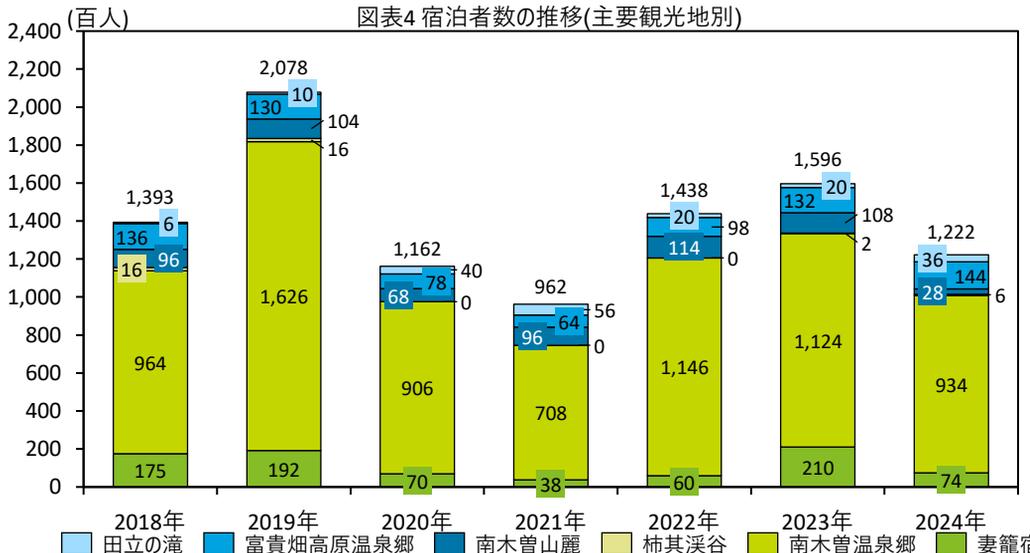
観光地別来訪者数の推移と観光振興施策の方針

- ✓観光地別の入込客数は、妻籠宿が毎年50%以上を占めており、南木曾町の主要観光地の中で飛びぬけた人気を有していることが分かります。近年は、中山道を訪れる外国人来訪者が増加している影響によって、2023年や2024年はコロナ前の水準に回復しつつあります。
- ✓一方で、他の観光地は妻籠宿の人気に追い付けておらず、妻籠宿一極集中となっていることが、南木曾町の観光の課題の1つであると言えます。
- ✓そのため、滞在時間を延ばす観点から、妻籠宿を訪れた来訪者に町内の他の観光地も訪れてもらえるような施策を展開することが重要と考えます。



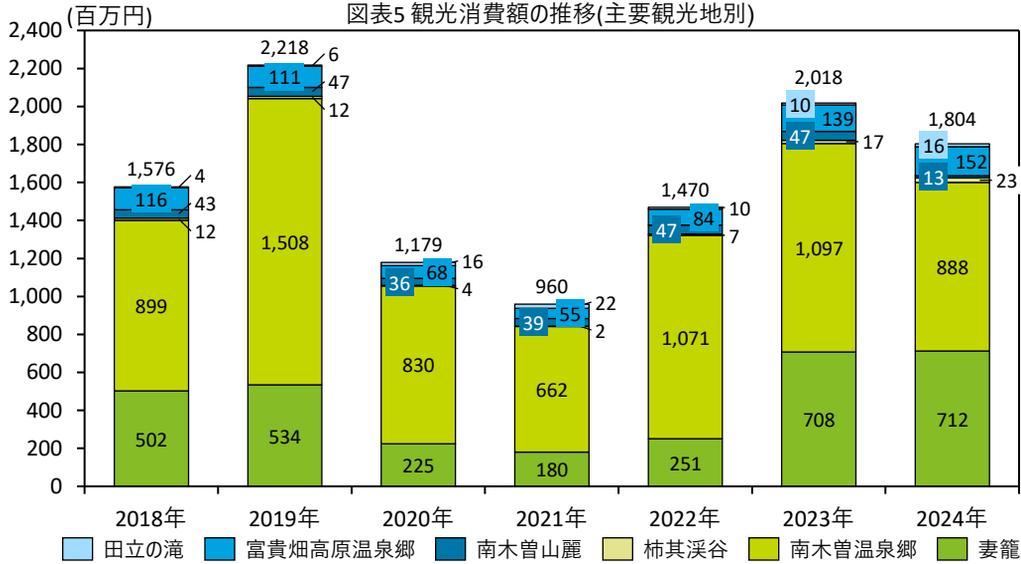
観光地別宿泊者数の推移と観光振興施策の方針

- ✓観光地別の宿泊者数は入込客数の傾向と異なり、南木曾温泉郷が全体の70%以上を占めており、南木曾温泉郷は宿泊者中心、妻籠宿は日帰り客中心と、観光地の特性が強く表現されています。
- ✓観光振興にとって宿泊は、消費単価の上昇と滞在時間の延伸に強く貢献します。日帰り客が殆どである妻籠宿は、景観保全などの文化保護の観点は極めて重要である一方で、バランスを保ちながら、宿泊を伴う観光への転換モデルへの転換も考えられます。
- ✓その他、従来の宿泊拠点である南木曾温泉郷や富貴畑高原温泉郷での施設誘致やPR強化、田立の滝、南木曾山麗の自然を活かした宿泊施設等のPR強化などが考えられます。



観光地別観光消費額の推移と観光振興施策の方針

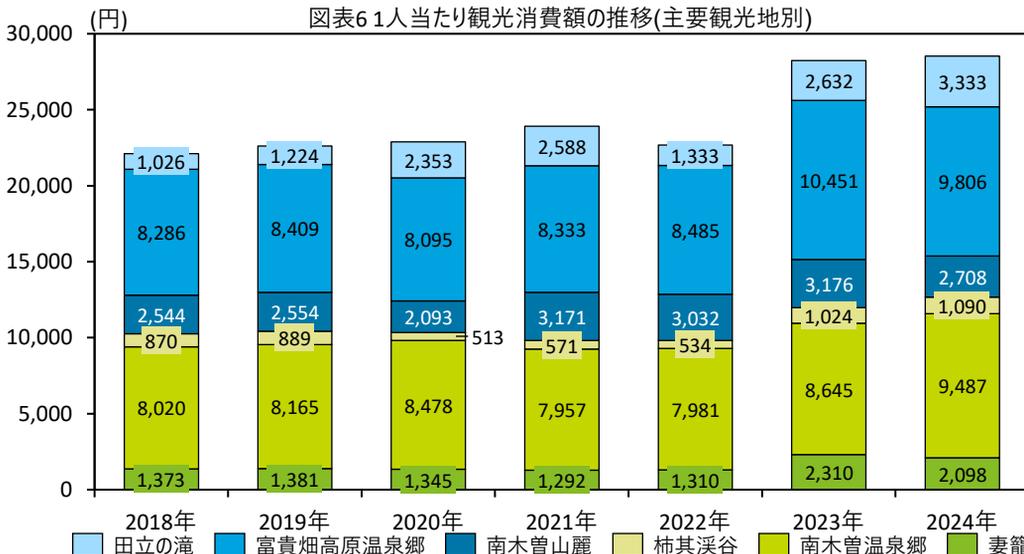
- ✓観光地別の観光消費額は、宿泊者数のグラフと近い傾向を示しており、宿泊費用が観光消費額の上昇に大きな影響をもたらしていることを改めて確認できます。他方、妻籠宿は宿泊者数が極めて少ないですが、来訪者が多いため、町内で2番目の観光消費額を有する観光地となっています。
- ✓他観光地は、来訪者・宿泊者いずれも少ないため、消費額は伸び悩んでいます。
- ✓持続可能な観光の視点では、稼ぐ力は地域経済の成長や、自然や文化保護への再投資に繋がるため重要ですが、稼ぐ手法によっては観光地への悪影響を及ぼすため、注意が必要です。



出所：長野県 観光地利用者統計調査結果

観光地別1人当たり観光消費額の推移と観光振興施策の方針

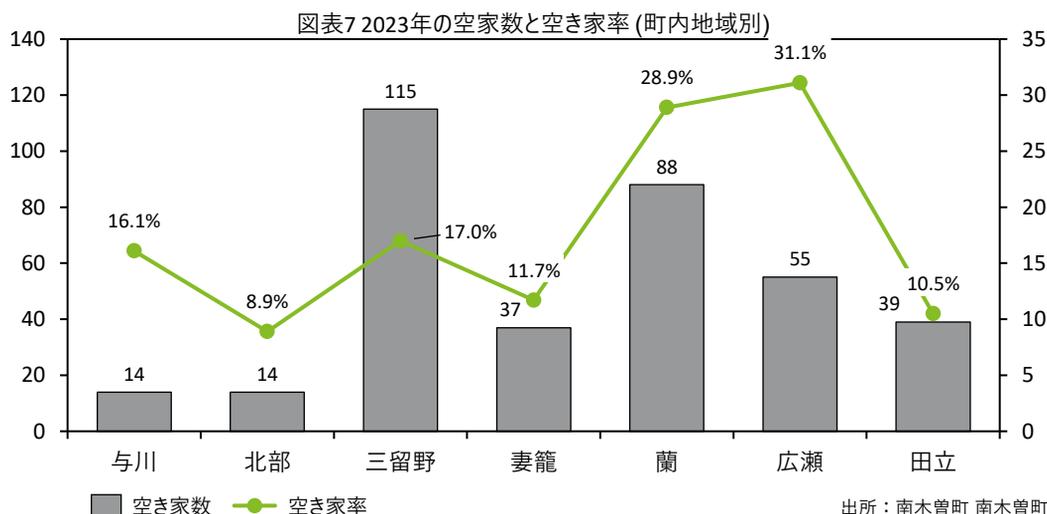
- ✓観光地別の1人当たり観光消費額は、妻籠宿は来訪者数の多さに対して1人当たり観光消費額が極めて小さいことがわかります。また、田立の滝や南木曾山麗、柿其溪谷もそれぞれ1人当たり観光消費額が小さく、消費単価の増加が南木曾町の観光の観光の大きな課題と言えます。
- ✓観光消費を「量で稼ぐ」ことは人手や資源の限界、オーバーツーリズムによる弊害が予測されるため、1人当たりの観光消費額を増加させる「質で稼ぐ」ことが重要です。
- ✓既に、来訪者が多い妻籠宿では消費を促進する仕組みを構築すること、未だ来訪者が多くない観光地においては、来訪者を惹きつける消費を伴う新たな魅力づくりが重要と考えます。



出所：長野県 観光地利用者統計調査結果

空き家活用による観光復興

- ✓空き家は、2006年に140戸、2014年は244戸、2023年には362戸と、年々空き家の数は増加しています。
- ✓空き家の増加は、景観の悪化を招くだけでなく、防災や環境の面でも生活環境に悪影響を及ぼしています。また、それらは南木曾町を訪れる来訪者にも当てはまります。
- ✓これらを未利用資産とするのではなく、地域再生の貴重なリソースとして観光振興に活用し、新たな宿泊施設や滞在拠点の整備に充てることが求められます。



観光統計等データ分析による課題抽出まとめ

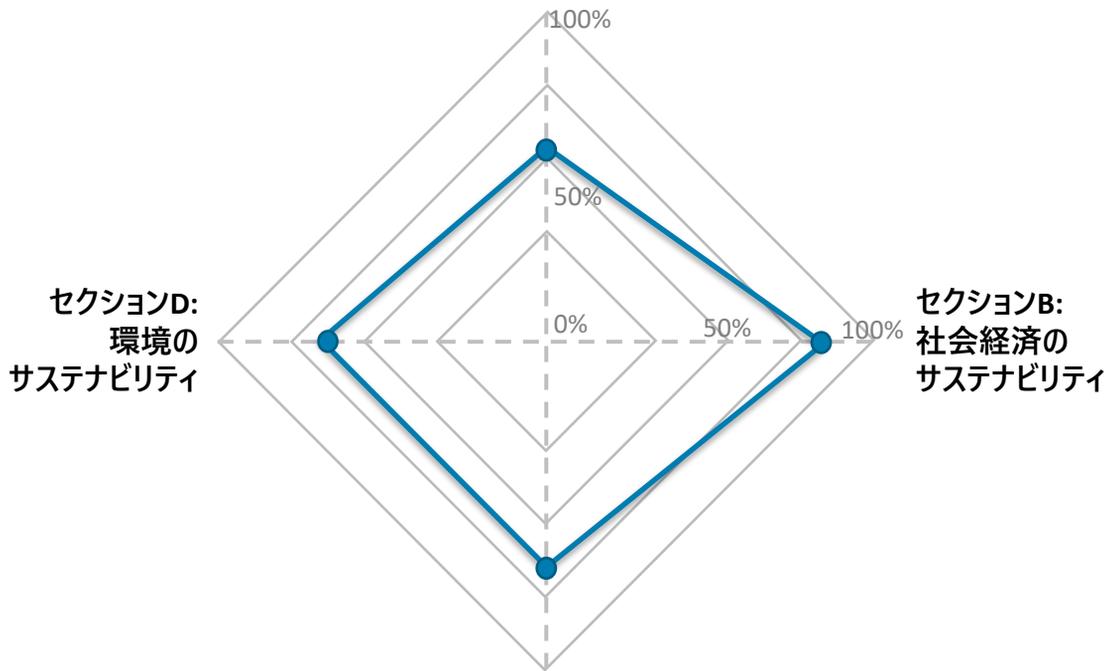
- ✓これまでの南木曾町の観光入込客数の構造は、妻籠宿に集中している状態ですが、妻籠宿の1人当たり観光消費額は他観光地と比較して極めて小さい状態で、量で稼ぐモデルとなっています。これは、妻籠宿近辺で宿泊する人の数が少ないことや、日帰りの場合においても消費機会が不足していることが原因と考えられます。
- ✓妻籠宿は南木曾町で最も人気のある観光地であるため、今後も観光振興の軸になるエリアですが、持続可能な観光地の視点からは、量で稼ぐのではなく、質で稼ぐモデルへの転換が重要と考えます。景観や文化を守りつつも、妻籠宿を守り、つなぎ、伝えていく観点においても宿泊者の獲得や消費機会の増大に向けた施策の展開が必要になります。
- ✓他方、南木曾町温泉郷や富貴畑高原温泉郷は、来訪者の殆どが宿泊者であるため、1人当たり観光消費額は大きくなっていますが、特に富貴畑高原温泉郷の来訪者数は南木曾町温泉郷と比較すると発展途上であるため、妻籠宿に訪れる来訪者の宿泊先としての機会を提供するため、新たな宿泊施設の整備や既存施設のPR強化が求められます。
- ✓その他、田立の滝や南木曾山麗、柿其溪谷など、妻籠宿以外の南木曾町の魅力ある観光資源を磨き上げ、妻籠宿一極集中の構造から抜け出し、町内周遊と滞在時間の延伸、高付加価値化により、町全体で持続可能な観光地を推進していくことが望まれます。

JSTS-Dアセスメントから見る南木曾町の課題

南木曾町の現状について、JSTS-Dのアセスメントを用いて分析したところ、「社会経済のサステナビリティ」、「文化的サステナビリティ」の2分野については70%を超える得点ですが、「持続可能なマネジメント」「環境のサステナビリティ」の2分野については70%を下回っており、特に持続可能なマネジメントについては得点率が52.2%に留まりました。

セクション名	得点/満点	得点率
A:持続可能なマネジメント	107点/205点	52.2%
B:社会経済のサステナビリティ	91点/120点	75.8%
C:文化的サステナビリティ	68点/95点	71.6%
D:環境のサステナビリティ	97点/145点	67.6%

セクションA:持続可能なマネジメント



セクションC:文化的サステナビリティ

アセスメントの詳細な結果から読み取れる南木曾町の主な課題は以下の通りです。

◎観光マネジメントの体制が弱い

- ・町民や来訪者の意見を把握する機会が設けられていない
- ・調査の不足により、南木曾町を訪れる観光客の動態を把握しきれていない
- ・ターゲット層の設定が不十分であり、プロモーションの効果測定もできていない

◎受入環境の整備が不十分

- ・トイレの洋式化やキャッシュレス整備を少しずつ進めているものの、財源の問題もあり、未対応箇所が残っている
- ・主に来訪客に向けたマナー啓発が不十分であり、文化や自然の保全に懸念が残る

アンケート結果から見た南木曾町の観光の課題

アンケートの結果から、南木曾町の観光における課題をヒト・モノ(物的資源)・財源・情報・観光防災の観点で整理しました。

ここでは、安心して快適な観光体験を支える受入環境の整備、観光資源の整備と価値の向上、南木曾の魅力を効果的に発信するためのブランディング・情報発信、それらを支える担い手や財源の確保などに対して、さまざまな課題が挙げられました。

ヒトに関する課題

南木曾町では、人口減少・高齢化の進行などにより観光の担い手不足が進んでおり、人材の育成や誘致が課題です。また、町民においても、南木曾町の観光に対する理解や参画が進んでいません。その結果、観光振興が一部の主体に依存しやすく、地域一体の取組みとして展開しにくい状況です。

現状

①観光を支える担い手の不足

- ・地域内で観光を企画・運営・マネジメントする担い手や、マーケティング・情報発信などを通じた観光の高度化に対応可能な専門人材が不足
- ・ガイド、宿泊・飲食事業者、公共交通の運転手など、観光サービスの担い手も不足
- ・伝統文化や地域資源を担う後継者不足により、観光資源の継承・活用が困難

課題

- ・地域内での観光人材の育成・スキル向上の仕組みが十分でない
- ・観光分野における地域内の役割分担や地域内外での連携体制が弱い
- ・地域外から専門人材や担い手を受け入れる仕組み・環境が整っていない

生じうる影響

- ・観光施策の企画・実行が限定的になり、新たな取組や改善が進みにくくなる
- ・観光資源の活用やサービスの質に影響し、滞在時間や観光消費額の伸び悩みにつながる

現状

②観光に対する町民理解・地域一体での機運醸成

- ・観光が地域にもたらす効果（経済面・雇用面・文化継承など）、観光振興の必要性について、町民の理解や共感が醸成されていない
- ・観光客・町民それぞれから見た南木曾の魅力について町民理解が進んでいない
- ・観光に町民が主体的に参加する機会が少ない

課題

- ・観光振興の目的や効果を町民に分かりやすく伝える取組が不足している
- ・町民が南木曾の魅力を実感し、守り伝えたいと思えるようなきっかけが不足している
- ・町民が観光に関わるきっかけや参加の場が十分でない

生じうる影響

- ・観光振興が地域全体の取組として共有されず、町全体の機運が醸成されない
- ・「町民よし・観光客よし」の持続可能な形での観光の実践が難しくなる

モノ(物的資源)に関する課題

南木曾町は、魅力的な観光資源を有している一方で、観光体験や消費の拠点となる施設、二次交通、案内機能など、観光を支える物的な基盤が十分に整備されていません。そのため、観光客が町内を回遊しにくく、滞在時間や消費機会が限定的になっています。

現状

①快適な滞在・周遊を支える受入環境の整備（観光拠点・交通インフラ、ITなど）

- 観光体験・消費の拠点となる場所（例：特産品販売、飲食、休憩、体験の場など）の不足
- トイレ、休憩所、案内サインなど、快適な滞在を支える基本的な設備の整備が不十分
- 観光客の移動ニーズに対して交通インフラが行き届かず、快適な移動や周遊が難しい
- デジタル化・IT活用が遅れている（例：Wi-fi、キャッシュレス決済など）

課題

- 観光客が地域内を安全・快適に周遊し、観光資源や体験、消費の選択肢にスムーズにアクセスできるような移動、滞在、案内、決済などに関する受入環境整備が不十分

生じうる影響

- 観光客が快適に滞在できず滞在時間が短期化し、観光消費の機会が十分に生まれない
- 観光客の周遊が進まず、周辺エリアへの波及不足、混雑による安全リスクが増える恐れ
- リピートに繋がる消費・体験を提供できず、観光客数の先細りにつながる

現状

②観光資源の一体的な保全と活用

- 観光資源の保全と活用を両立させるための方針が未整備
- 観光資源の強みや特性、地域内での位置付けの整理が不十分
- 観光資源の強みなどを踏まえたバリューアップ(魅力向上のための整備)が不十分

課題

- 各観光資源が持つ魅力や強みを踏まえた観光資源の保全・活用方針がない
- 南木曾の観光資源が持つ強みを活かしつつ、観光客のニーズにも対応した形での観光資源の整備、観光コンテンツの造成・磨き上げが未実施

生じうる影響

- 観光資源の持続的な保全や質の向上につながりにくい
- 観光資源の価値や強みが十分に引き出されず、観光客の満足度・観光消費が低下
- リピートに繋がる消費・体験を提供できず、観光客数が先細りにつながる

情報に関する課題

地域のストーリー・コンセプトの整理および効果的な情報発信にまだ取組みの余地があり、南木曾町の魅力が観光客に十分に伝えられていない状況です。また、来訪者への分かりやすい観光情報の提供や、ルール・マナーに関する周知、データの利活用にも課題があります。

現状

①魅力が伝わる観光ブランディングと情報発信

- ・地域資源の背景や価値が体系的にストーリー化されておらず、エリアとしての魅力が伝わりにくい
- ・地域資源の認知度にばらつきがあり、一部のスポット・コンテンツに観光客が集中している
- ・観光を行う上で必要な情報が分散しており、観光客が情報を網羅的に入手できない
- ・訪日外国人向けの情報発信が限定的

課題

- ・地域の魅力を横断的に整理したストーリー・コンセプトが整理されていない
- ・観光資源、交通、宿泊、飲食等に関する情報を一体各資源の魅力効果を効果的に伝えるマーケティング的に発信する仕組み・媒体がない
- ・訪日外国人観光客向けの多言語対応、文化的背景等を踏まえた情報提供が不足している

生じうる影響

- ・南木曾の持つ価値が観光客に十分に認識されず、消費額・観光客の周遊性の低下につながる
- ・地域全体としての観光イメージが形成されず、観光客に選ばれにくくなる

現状

②観光案内の整備、観光マナー・ルールの周知、観光モラルの醸成

- ・訪日外国人観光客の増加に対し、観光地の交通規制や立入制限、利用方法等の案内が不十分
- ・自然環境・文化財の保護や、地域の生活と調和した観光を実現するためのマナーの周知が不十分
- ・観光客モラルの醸成に向けた情報提供が不十分

課題

- ・訪日外国人が交通規制や利用ルールを理解できる情報提供が不足している
- ・自然環境・文化財の保全や、地域に配慮した行動について、効果的な周知・啓発がされていない
- ・観光客に対し、守るべきルールや、地域に歓迎される行動を伝える仕組みがない

生じうる影響

- ・滞在の中で観光客に不安・不便が生じ、満足度が低下する
- ・観光マナー・モラルを巡るトラブルにより、地域町民の観光受入意識が低下する
- ・自然環境や文化財への負荷が高まり、観光地としての持続可能性が損なわれる

現状

③観光データの把握・分析・活用

- ・観光客数、来訪時期、滞在時間などのデータが把握できておらず、町内の観光の現状把握や施策の効果検証が難しい

課題

- ・観光動向などに関するデータを、定期的に収集・整理・分析する手段・仕組みが整備されていない

生じうる影響

- ・町の観光の現状や、観光動向の変化を踏まえた取組みができず、持続的・戦略的な観光振興が難しくなる

財源に関する課題

観光振興を持続的に推進するためには、施策の企画・実行・改善を継続的に支える財源の確保が不可欠です。しかし、現状では、観光施策に充当可能な財源に限りがあり、新たな取組や中長期的な取組を進めにくい状況にあります。

現状

観光施策を推進するための財源の確保

- 行政・観光協会において、予算の制約が観光振興施策の展開や継続の支障となっている
- 観光施策の財源が国・県等の補助金名など外部財源に依存する場合、事業の継続性や柔軟性が確保しにくい

課題

- 観光事業者の取組を後押しし、地域全体として観光の経済効果を高めるための支援が必要
- 観光消費を地域内での再投資や自主財源の創出につなげる仕組みづくりが十分でない
- 補助金・助成金等の外部財源についても戦略的な活用が必要

生じうる影響

- 観光施策が継続的なものとならず、十分な施策効果を生むことができない
- 観光が地域にもたらす資金が限定的になり、地域経済の持続的な活性化につながらない
- 町民等の自発的な活動への依存度が高まり、観光、地域の持続可能性に影響する可能性

防災に関する課題

訪日外国人観光客を含む観光客を想定した防災対応の考え方や体制の整備、これに基づく災害時の情報提供や避難誘導、避難場所や支援物資等の確保などが課題として挙げられます。

現状

観光客を考慮した防災・災害対応（情報発信、避難所や観光資源の整備）

- 地域において、観光客を考慮した防災・災害対応に関する対応が十分整理されていない
- 防災の備えや災害発生時の対応について、観光客に認識してもらえない
- 観光客を加味した、避難所や支援物資の確保が不十分

課題

- 観光客を含めた防災・災害対応のためのルールや対応方法、発信すべき情報が未整理
- 防災の備えや災害発生時の対応について、観光客に分かりやすく伝える方法が未整備
- 観光客を想定した避難場所の設置・誘導體制、支援物資の確保が不十分

生じうる影響

- 観光客を含めた防災・災害対応のためのルールや対応方法、発信すべき情報が未整理
- 防災の備えや災害発生時の対応について、観光客に分かりやすく伝える方法が未整備
- 観光客を想定した避難場所の設置・誘導體制、支援物資の確保が不十分

～南木曾町の観光が抱える課題まとめ～

南木曾町の観光に関するデータ、JSTS-Dのアセスメント結果、地域の声を反映したアンケート結果等を踏まえて、南木曾町の観光が抱える課題の全体像を整理した結果、取り組むべき最重要課題は「高付加価値化と滞在時間の延伸」と整理しました。

最重要課題に取り組むためには、周遊促進による滞在時間の長期化と消費機会の増加、消費単価の向上が必要です。

しかし、そのためには、受入環境整備が不足していること、観光資源の一体的な活用と情報発信が不足していることが課題です。また、これらを支える基盤としての担い手・財源の不足に加え、安心・安全を担保する観光防災の強化も求められます。

観光の高付加価値化と滞在型観光の実現

観光資源を面的に、そしてストーリーとして体験できる周遊構造ができている
来訪者が地域内で快適に滞在・移動・消費できる受入環境が整っている
地域の価値が幅広い人々に伝わり、来訪先として選ばれる

観光マネジメント体制の強化

南木曾町の観光を適切にマネジメントする体制が整っていない

- ・ 南木曾町役場や南木曾町観光協会をはじめ、観光関係の団体や組織は存在するものの、人材や財源、マネジメントのノウハウなどが不足している

受入環境整備

安心で快適な滞在・周遊を支える受入環境の不足

- ・ 観光客が町内で安全かつ快適に「回る・使う・泊まる」ことを前提とした受入環境が十分に整備されていない

観光資源の活用

観光資源の一体的な活用と魅力発信の不足

- ・ 地域内の観光資源が一体的に整理・活用されておらず、来訪者に「価値」として十分に伝わっていない

南木曾町の観光を支える基盤

ヒト(人材)

- ・ 観光サービスを支える担い手の不足
(観光コンテンツの運営、宿泊、飲食、交通、伝統文化、専門人材等)
- ・ 観光への町民理解・参画が十分に進んでいない

財源

- ・ 観光を継続的に振興するための安定的・継続的な財源が不足
- ・ 観光消費が地域内で循環する仕組みの未整備

観光防災

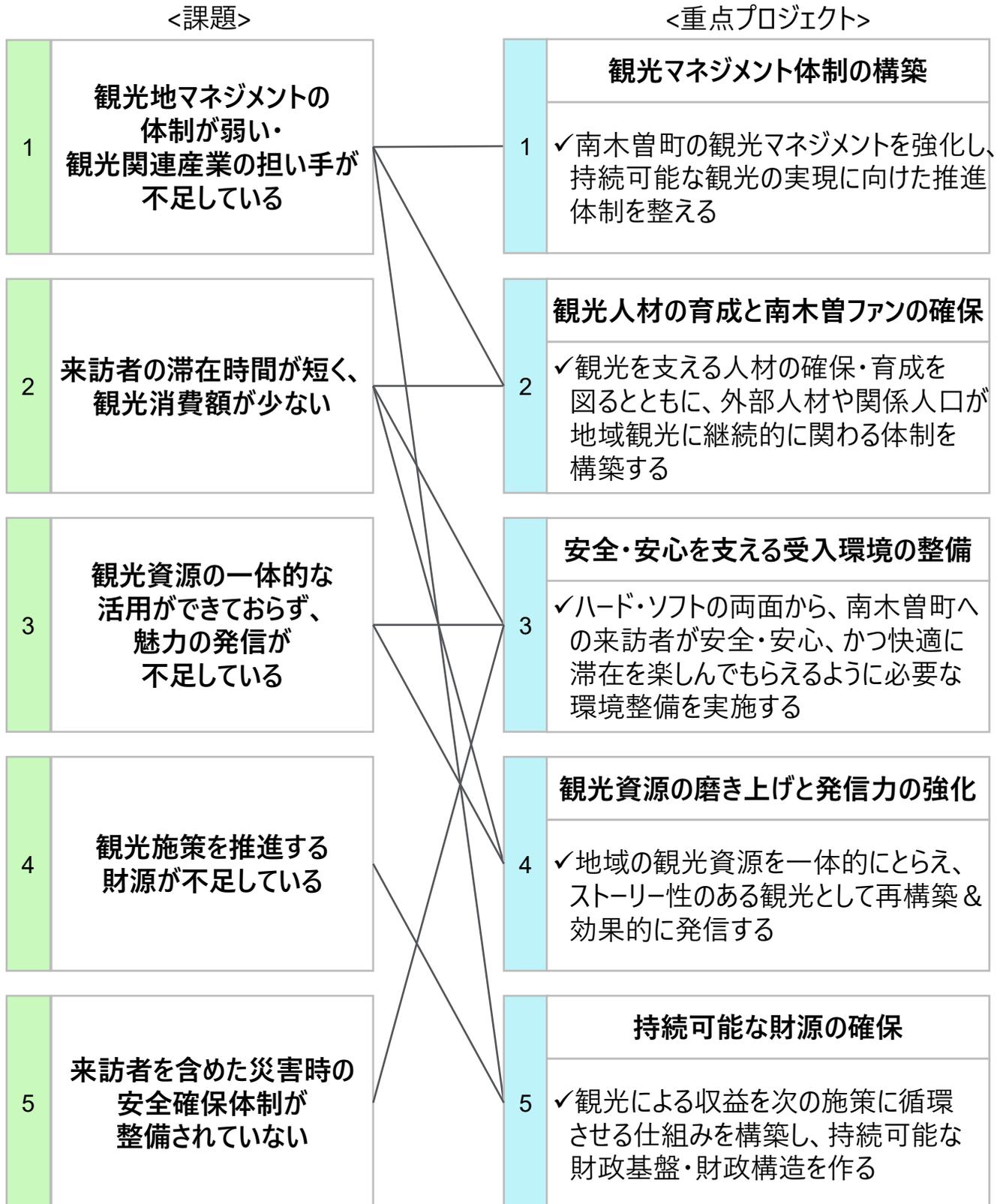
- ・ 観光客を含めた災害時の安全確保体制の未整備
(情報発信・避難受入体制・状況把握の仕組み等)

第3章：課題の解決に向けたアクションプラン

～課題の解決に向けた基本方針～

これまでに整理した南木曾町の観光における課題を踏まえ、その解決に向けて取り組むべき重点プロジェクトを整理しました。

いずれのプロジェクトも、日本各地どこの観光地においても実施されることが望ましいような基本的な内容です。まずはこれらのプロジェクトをしっかりと取り組み、持続可能な観光地としての基盤を固めた上で、今後南木曾町の強みを更に光らせていくことを想定しています。



<重点プロジェクト(中分類)>

<関連するJSTS-D>

1-1	地域の関係者が広く集まって意見交換を行う場を新たに設置する	A6,A7
1-2	来訪者の動向を調査し、適切なマーケティングを行う	A9,A11 B1,C6 C2
2-1	南木曾町の観光を担う人材を育成する	A2,A5 A8,B2
2-2	関係人口・交流人口を増加させる	A10,B4
3-1	ハード面における受入環境を整備する	B7,B8 C7,D2
3-2	ソフト面における受入環境を整備する	B7,B8 C7,D2
4-1	町内の観光資源を整理し、南木曾町の魅力を再発見する	A10
4-2	町特有の観光資源やストーリーを活かした観光コンテンツを開発する	A4,B1
4-3	B to B、B to Cの双方で効果的な情報発信を行う	A2,A10
5-1	町内の観光事業者を対象とした支援を拡充する	A4,B2,B3
5-2	観光消費の拡大による自主財源創出の検討を行う	A4,B3

重点プロジェクト1: 観光マネジメント体制の構築

JSTS-D

1-1: 地域の関係者が広く集まって意見交換を行う場を新たに設置する

A6

A7

適切な観光マネジメント体制の構築には、町民や観光関係の団体・企業等の話を広く聞く事が大切です。

これまで南木曾町観光協会が主体となり、持続可能な観光推進チーム会議を開催してきましたが、これをより発展させ、持続可能な観光に関するワーキンググループとして、定期的な意見交換会と現状確認の場を設置します。

具体的なアクション

- 持続可能な観光ワーキンググループの設置
 - ✓ 計画の進捗を定期的に関係者全員で確認する体制を整える
 - ✓ 観光に関する調査結果の共有や、観光政策の方針説明なども行うことで、町内の関係者が一丸となって観光地経営を推進する

主な実施主体

実施主体：南木曾町
南木曾町観光協会
連 携：町民、各観光協会、商工会
ほか

JSTS-D

1-2: 来訪者の動向を調査し、適切なマーケティングを行う

A9

A11

など

これまで南木曾町では町民・地域事業者・来訪者の意見や、町内での観光動向を調査しきれていませんでした。適切なマーケティングのためにはデータが不可欠であるため、今後詳細な調査を実施します。調査結果から南木曾町の現状と課題を適切に把握し、課題が見られる場合は解決に向けた施策を迅速に検討し、実行に移します。

具体的なアクション

- 町民・地域事業者など、町民向けの観光アンケート調査の実施
- 来訪者を対象とした満足度や動向調査の実施
 - ✓ 各種調査から見えてくる観光に関する課題の抽出と、解決施策の検討・実施

主な実施主体

実施主体：南木曾町
南木曾町観光協会
連 携：町民、各観光協会、商工会
ほか

2-1: 南木曾町の観光を担う人材を育成する

持続可能な観光の推進には、観光業に携わる人材を継続的・安定的に確保することが必要です。実際に来訪者とふれあう観光関連事業者の人材、施設の維持管理を行う人材、観光マネジメントを行う役場や観光協会の人材など、広く人材を育成し、観光産業に携わりたいと思ってもらえるような仕組み作りを行います。観光ガイドについては木曾広域連合など町外の関係者とも連携しながら人材の育成を図ります。

具体的なアクション

- 南木曾町の学生を対象とした観光教育プログラムの立案と実行（例：インバウンドとの交流体験、職場体験、講師を招いての講演など）
✓観光に興味を持ってもらうとともに、南木曾町への愛着を育む
- 持続可能な観光に関する国際基準を理解し、観光地の持続可能性を向上させるための専門家であるGSTCコーディネーターの育成

主な実施主体

実施主体：南木曾町
南木曾町観光協会
連 携：各観光協会、商工会 ほか

2-2: 関係人口・交流人口を増加させる

観光振興による地域経済の活性化に留まらず、南木曾町が直面している人口減少・高齢化に歯止めを掛けるためには、南木曾町が観光地として「消費される場所」ではなく、「人と地域が関係を結び付ける場所」として機能し、来訪者が南木曾町と継続的な関係を構築してファンになっていただくことが必要です。そのような活動が実を結ぶことで、中長期的には関係人口から移住者へと変遷していくものと考えています。そのために、関係人口を増加させるためのアクションを積極的に実施していきます。

具体的なアクション

- 継続的に南木曾町を訪れてもらう/接点を持ち続けるアクションを展開
✓継続型の体験コンテンツや講座、来訪者参加型プロジェクトの組成
✓ボランティアや用途が明確な寄付・協力金(クラウドファンディング)の実施
✓会員制度・サポーター制度の検討

主な実施主体

実施主体：南木曾町
南木曾町観光協会
連 携：各観光協会、商工会 ほか

3-1 ハード面における受入環境整備_二次交通の利便性向上

B7

B8

など

観光客が地域内を円滑に移動し、快適かつ安心して滞在できる環境をつくるためには、来訪者が不便を感じず利用できる二次交通環境の整備が不可欠です。鉄道駅と主要観光地間の移動手段の強化が喫緊の課題ですが、既存交通・新規の交通手段の活用も含め、ゆくゆくはエリア全体を快適に周遊できるような交通網の整備を見据えた持続可能な取組が必要です。

具体的なアクション

- エリア内の交通網整備計画の検討
- 鉄道駅と観光拠点、各観光拠点間を結ぶ二次交通の補完
 - ✓ 繁閑に応じた既存交通の効率化や、自転車などの新規の移動手段の導入の検討など
- 切符・チケットのキャッシュレス決済・オンライン予約の導入
- 各種交通手段を一定期間使用できるエリア内周遊パスの導入

主な実施主体

実施主体：南木曾町
 連 携：南木曾町観光協会
 交通事業者 ほか

3-1 ハード面における受入環境整備_観光・消費拠点施設の維持・強化

B7

B8

など

観光客が安心して滞在し十分に観光を楽しむためには、観光・消費はもちろん、観光案内、休憩、消費、安全の確保といった機能を担う施設・設備を、いつでも十分に利用できる状態にしておくことが必須です。特に、妻籠宿をはじめとする歴史文化資源では、老朽化への対応や防災・減災の観点を踏まえた補修・改修が必要です。また、それ以外の場所でも、利用実態などを踏まえた補修・改修による機能の維持・強化が望まれます。

具体的なアクション

- 観光・消費の拠点となる施設の補修・改修(観光資源、特産品取扱店、観光案内所など)
- 歴史文化的資源における防災・減災のための補修・改修(妻籠宿の耐震改修など)

主な実施主体

実施主体：南木曾町
 連 携：観光協会
 交通事業者
 商工団体
 宿泊・飲食事業者 ほか

3-1 ハード面における受入環境整備_その他施設・設備の強化

B7

B8

など

観光客が地域内で快適に滞在し、観光・消費活動を行うためには、通信環境や決済手段、衛生設備など、滞在の基本を支える施設・設備が整っていることも不可欠です。南木曾町では、観光客が使用できる通信環境の整備や、キャッシュレス決済対応、トイレ・休憩所の増設・補修などを段階的に進めることで、スムーズで心地よい観光体験を提供できるようにします。

具体的なアクション

- トイレ（洋式・バリアフリー対応のトイレなど）の増設・既存施設の改修
- 観光案内機能を併せもった休憩所の設置・既存施設の改修
- Wi-Fi等の通信環境整備
- 観光施設などへのキャッシュレス決済の導入
- 観光施設などへのオンライン予約・チケットレス購入の導入
- 利用状況を踏まえた駐車場の増設

主な実施主体

実施主体：南木曾町
 連携：観光協会
 交通事業者
 商工団体
 宿泊・飲食事業者 ほか

3-2 ①ソフト面における受入環境整備_観光案内・情報提供の強化

B7

B8

など

観光客が地域内を円滑に移動し、快適に安心して滞在できるためには、必要な情報が適切なタイミングと方法で提供されることが重要です。そこで、観光に関する案内や情報の内容・提供方法・発信主体を整理し、デジタルやガイドの力も活用しながら、必要な情報をワンストップで届けられる仕組みづくりに取り組み、来訪者の安心感と満足度につなげます。

具体的なアクション

- 町の観光公式Webサイト・SNSにおける、観光に関する情報の集約
- 周遊ルート、所要時間、混雑情報など、滞在時に役立つ情報の発信
- 多言語・ピクトグラム等を活用した分かりやすい案内の実施
- ガイドの検索・予約ができるワンストップ窓口の整備

主な実施主体

実施主体：南木曾町
 観光協会
 連携：交通事業者
 商工団体
 宿泊・飲食事業者・ガイド ほか

3-2 ②ソフト面における受入環境整備(観光マナー・ルールの周知)

C7

D2

訪問客が安全・快適に過ごし、地域も悪影響を及ぼすことなく楽しむためには、南木曾町を観光するうえで守るべきルールやマナーを訪問客が理解し、適切に行動することが必要です。このため、南木曾町では、訪問客に「守ってもらうべきルール」と「守ってもらえるとうれしいマナー」を明確化し、背景や理由も含めながら、分かりやすく実効的に伝える仕組みを整備します。

具体的なアクション

- 自然・文化資源保護に関する行動ルールの整理（立入禁止区域の設定、撮影ルールなど）
- 訪問客向け行動ルール・マナーガイドの作成と効果的な発信
- 旅マエ・旅ナカでルール・マナーの遵守を訪問客に宣言してもらい、観光モラルの醸成を行う仕組みづくり
- 多言語対応やピクトグラムなどを用いた分かりやすい案内の実施

主な実施主体

実施主体：南木曾町
 連 携：観光協会
 地域事業者など

3-2 ③ソフト面における受入環境整備（観光防災・災害対応）

A15

B8

災害時の安全確保においては、訪問客の不安や混乱を最小限にし、適切な防災・避難行動をとることができるかがポイントです。また、防災のための備えという観点では、訪問客向けに案内する内容や案内方法などについて、地域であらかじめ整理して認識共有しておくことも大切です。こうした点も踏まえながら、南木曾町では、観光防災に向けた取組を今後も進めていきます。

具体的なアクション

- 「観光防災手帳」作成の検討
- インバウンドにも伝わる基本的な避難ルールや、ハザードマップ等を活用した避難所への誘導策の策定

主な実施主体

実施主体：南木曾町
 観光協会
 連 携：地域の全ての
 ステークホルダー

4-1 町内の観光資源を整理し、南木曾町の魅力を再発見する

A10

南木曾町内の観光資源は点在し、情報も主体ごとに分かれているため、来訪者にとって「何があるか」「どれくらい滞在できるか」が伝わりにくく、結果として短時間滞在に偏りやすくなります。そこで、町内の観光資源を網羅的に洗い出し、周遊・滞在の設計に使える情報まで揃えて一元化します。一元化にあたっては、棚卸した観光資源を南木曾町らしい背景やストーリーとして言語化します。これにより、発信が統一され、モデルコース化・商品化・滞在延伸につながります

具体的なアクション

- 観光資源の棚卸し
 - ✓棚卸し対象の範囲を定義
 - ✓現地確認や関係者ヒアリングによる情報収集などにより棚卸し
- ストーリーの構築
 - ✓各テーマのストーリー骨子を作る（誰に何を伝えるか）
 - ✓テーマ別に“核となる資源”を選定
 - ✓テーマに沿った滞在プランの検討

主な実施主体

実施主体：南木曾町
 連携：南木曾町観光協会
 協力：与川観光協会
 柿其溪谷観光協会
 妻籠観光協会
 田立観光協会
 南木曾商工会
 妻籠を愛する会 ほか

4-2 町特有の観光資源やストーリーを活かした観光コンテンツを開発する

A4

B1

「南木曾町でしかできない体験」を商品として成立させ、高付加価値化と滞在理由をつくるのが重要です。妻籠宿をはじめ日本遺産を核にしつつ、森林文化・ものづくり・食・季節行事等を組み合わせてコンテンツを磨き上げ、通過型観光から滞在型観光への転換と高付加価値化によって、観光消費額を伸ばします。そのために、体験メニューの造成と商品化を進め、宿泊・飲食・体験・お土産と組み合わせた“稼げるコンテンツ”を増やします。

稼げるコンテンツ造成

- 飲食と体験を組み合わせたセット商品の造成
- 森林・里山を活かした自然体験メニューの造成
- 地域に根付く「暮らしそのもの」に触れる体験メニューの造成
- 日本遺産の“学び”要素を入れた体験プログラム開発
- 宿泊施設と連動した体験販売

主な実施主体

実施主体：南木曾町
 南木曾町観光協会
 連携：与川観光協会
 柿其溪谷観光協会
 妻籠観光協会
 田立観光協会
 南木曾商工会
 妻籠を愛する会 ほか

南木曾町の魅力が「点」で伝わっており、来訪者には滞在・周遊のイメージが持たれにくく、旅行会社等にも“商品として扱いやすい情報”が不足しがちです。

「3-2 ①ソフト面における受入環境整備_観光案内・情報提供の強化」したうえで、BtoBでは旅行会社・ランドオペレーター等に向けて、扱いやすい商品・資料・問い合わせ窓口を用意し、BtoCでは「旅の検討～予約～現地周遊」まで一貫した導線を整えます。

具体的なアクション

- BtoB向け
 - ✓旅行会社向け商品資料の整備
 - ✓旅行会社・ランドオペレーター向けの定期セールス
 - ✓団体向けの受入メニュー造成
- BtoC向け
 - ✓テーマ別の特集ページ作成とSEOを意識した記事発信
 - ✓口コミ（レビュー）獲得・返信運用の仕組み化
 - ✓OTA・体験予約サイトでの露出強化

主な実施主体

実施主体：南木曾町
連 携：南木曾町観光協会

5-1: 町内の観光事業者を対象とした支援を拡充する

来訪者が、南木曾町を訪れて満足していただくためには、町内の飲食店や宿泊施設、土産物店、体験施設などの町内観光事業者の皆様の活力が不可欠です。これから新たに観光事業を始められる方や、事業を受け継ぎたいと考えられている方も含め、町内観光関連産業の活性化及び雇用の創出を図るための支援を拡充していきます。また、財政的な支援だけでなく、誘客や人材育成など、幅広い視点で支援メニューを展開していくことで、包括的な支援を実現します。

具体的なアクション(想定)

- 創業支援補助金
(令和7年度より実施中)
- 事業継承応援補助金
(令和7年度より実施中)
- 南木曾町中小企業振興資金
(令和7年度より実施中)
- 支援メニュー拡充に向けた観光事業者の要望調査
- 継続的に実施可能な支援制度の検討

主な実施主体

実施主体：南木曾町
連 携：南木曾町観光協会

5-2: 観光消費の拡大による自主財源創出の検討を行う

本計画で設定した各アクションを推進していくためには、継続的に多くの予算が必要となりますが、従前の観光予算では不十分と考えています。持続可能な観光地づくりの推進のため、安定的で継続的な観光予算の確保に向けて、関係機関とも意見交換を行いながら、観光振興により観光消費が拡大していくことで財源が確保できるような、新たなスキームの検討を進めて参ります。

具体的なアクション(想定)

- 新たな自主財源の創出に向けた検討の場の設置と先進事例の研究
- クラウドファンディング型ふるさと納税の実施
- 旅行業による収益強化

主な実施主体

実施主体：南木曾町
連 携：南木曾町観光協会
協 力：与川観光協会
柿其溪谷観光協会
妻籠観光協会
田立観光協会
南木曾商工会
妻籠を愛する会 ほか

第4章：成果目標の設定

～計画全体の成果目標の設定～

持続可能な観光地づくりを推進するためには、第3章で設定した重点プロジェクトに紐づくアクションの成果を定量的に評価することが不可欠です。さらに、その評価を基に、継続的な改善を繰り返すことで、町の観光振興が実現されると考えています。

本章では、各アクションの成果を評価するための定量指標(KPI)と、観光振興計画全体の目標である最上位目標指標(KGI)について、設定の背景と併せてお示しします。

南木曾町持続可能な観光振興計画の最上位目標指標(KGI)※再掲

<目標指標名>	<現状>	<中間目標(2031年)>	<目標(2036年)>
1 観光消費額 (1人あたり消費額)	1,804百万円 (3,765円) ※2024年実績	2,500百万円 (4,500円) ※コロナ禍以前を更新	3,500百万円 (5,500円)
2 観光入込客数 (延べ人数)	479,100人 ※2024年実績	551,800人	620,000人 ※コロナ前(2019年)同水準
3 宿泊者数 (延べ人数)	122,200人 ※2024年実績	200,000人 ※コロナ禍以前同水準	300,000人
4 来訪者満足度	— ※実績値無し	30% ※数値新規取得	50%
5 「観光の振興」 に対する 町民満足度	20.9% ※2024年実績	50% ※第11次南木曾町総合計画 目標値と整合	75%

出所：長野県 観光地利用者統計調査結果
南木曾町 第11次南木曾町総合計画策定にかかる基礎調査報告書, 第11次南木曾町総合計画, 第3期南木曾町地方創生総合戦略

■観光消費額

- 持続可能な観光の視点では、観光消費額を増加させることは地域経済の成長と雇用の創出だけでなく、稼いだお金を環境や文化保全、インフラ整備など様々な分野へ再投資し、南木曾町の持続的な発展に大きく貢献します。そのため、本計画の最上位目標指標として設定しています。
- 2024年の南木曾町の観光消費額は1,804百万円、コロナ禍以前の2019年は2,218百万円でした。それを踏まえて、5年後(2031年)の目標値は、コロナ禍以前の観光消費額を更新する2,500百万円と設定しました。過去10年間(2014年～2024年)の観光消費額の成長率を加味し、各観光地に大きな負担を掛けないように設定をしています。また、計画の終了期間である2036年までの目標を3,500百万円に設定していますが、5年後の達成状況を踏まえて見直すこととします。
- 1人当たり観光消費額では、5年後に4,500円、10年後に5,500円を目指すこととします。

■延べ観光入込客数(外国人観光客含む)

- 観光消費額を増加させる上で、来訪者の数は非常に重要な項目となります。本計画の中心施策である、周遊・滞在時間延伸、高付加価値化によって、量で稼ぐモデルから、質で稼ぐモデルへ転換することを念頭に、5年後及び10年後の目標値を設定しました。
- 具体的には、10年後の観光入込客数を62万人と設定しました(5年後は55万人と設定)。この数値は、コロナ禍以前の2014年から2019年までの期間のピークの来訪者と同水準となります。直近は、観光入込客数を追い求めるのではなく、質への転換を優先すること、具体的には妻籠宿を訪れた方に南木曾町その他観光地を巡っていただけるような施策に注力します。

■延べ宿泊者数(外国人観光客含む)

- 南木曾町で宿泊いただくことは、滞在時間の延伸に大きく貢献します。現状の宿泊施設のキャパシティに限りがある中ではありますが、季節による繁閑差を無くした通年型観光の推進、またキャパシティそのものを拡大していくことで、宿泊者数の増加を目指します。その結果として、滞在時間の延伸、ひいては観光消費額の増加を実現させます。
- 具体的な目標値としては、5年後に2019年の20万人と同水準を目指します。10年後には、30万人を目指すこととし、滞在型の観光を強く推進します。

■来訪者満足度

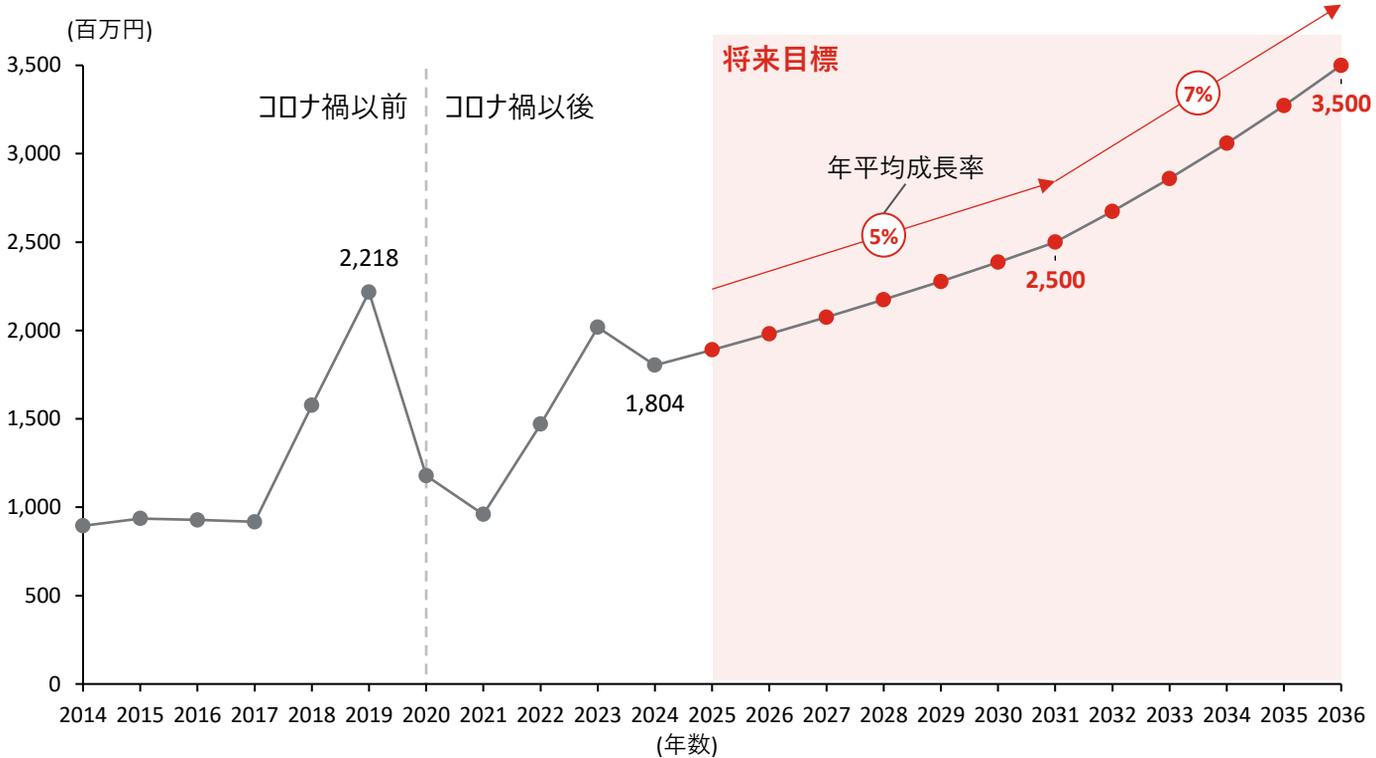
- 観光ビジョンに掲げた、「訪れてよし」を体現するために、来訪者満足度を計画全体の目標値に設定しました。来訪者の方が満足してお帰りいただき、また次の旅行でも南木曾町を訪れていただくために、重要な指標であると考えています。その結果として、中長期的には、交流人口から、関係人口へ、そして移住・定住に繋げていきます。
- 現状では、南木曾町として来訪者満足度を調査していないため、まずは現状の満足度を明らかにしながらも、5年後には来訪者の30%が満足したと回答いただけるように、観光振興を進めて参ります。そして、10年後には来訪者満足度50%を目指します。

■「観光の振興」に対する町民満足度

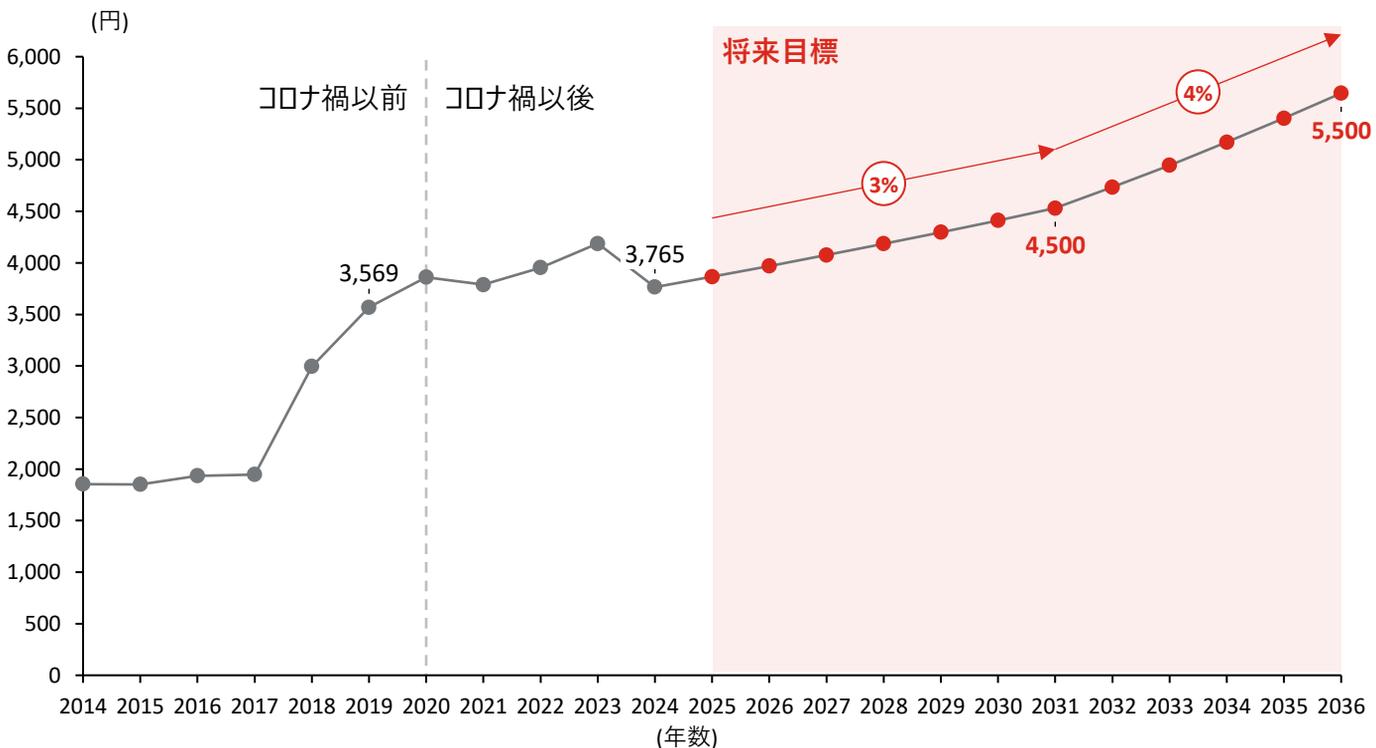
- 観光ビジョンに掲げた通り、来訪者の視点だけでなく、観光振興によって町民の皆様が「住んでよし」と感じていただけるような施策を展開していきます。
- オーバーツーリズムによる様々な問題など、観光振興によって町民の皆様の日々の生活に支障をきたさないだけでなく、観光振興によって、これまでの生活がより良くなったと感じていただけるように努めて参ります。
- 現状の調査では、20.9%の方が観光の振興に対して満足と回答いただいています。この結果を踏まえて、5年後には50%、10年後には75%を目指していきます。観光関連産業は、町民の皆様の協力無しでは発展しえないため、来訪者満足度よりも高い目標を設定しています。

～計画全体の成果目標の設定～

過去10年間の観光入込客数の推移を踏まえた目標値の設定

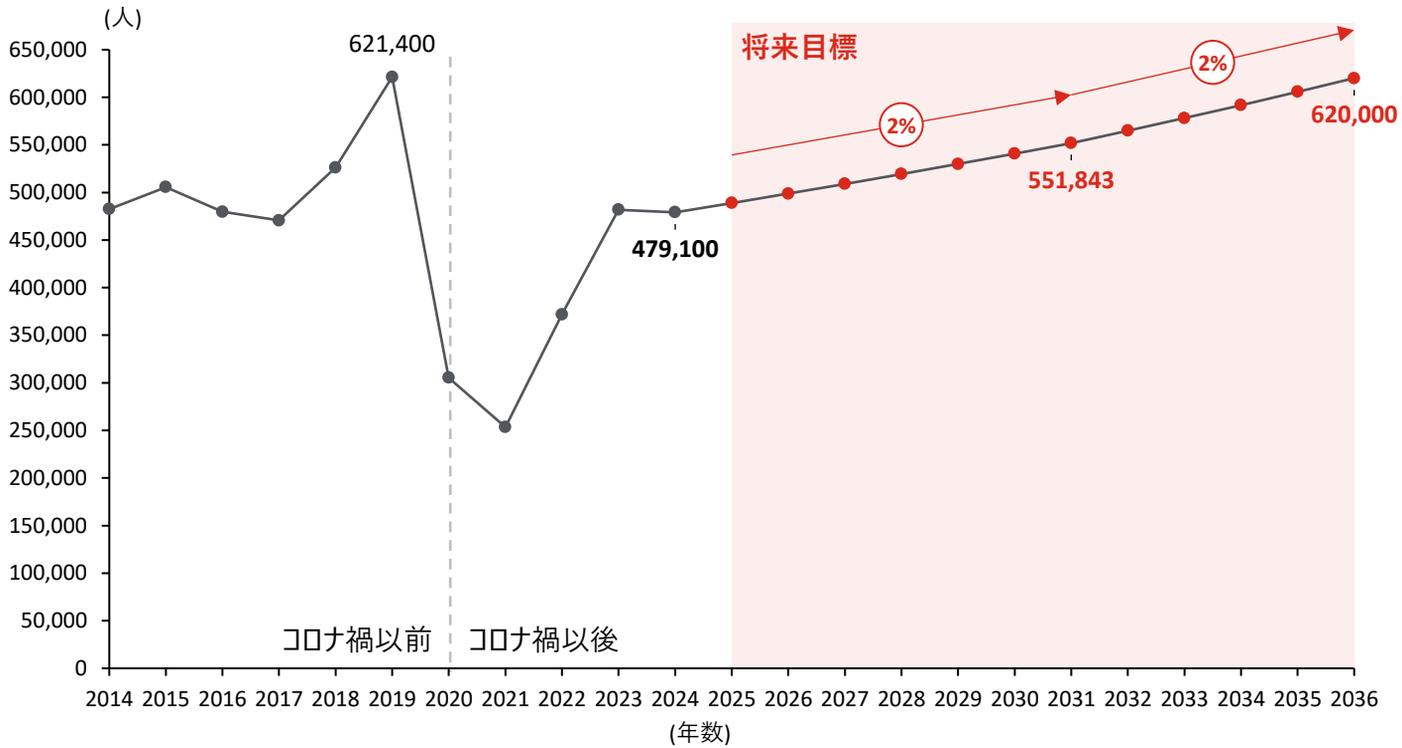


過去10年間の宿泊者数の推移を踏まえた目標値の設定

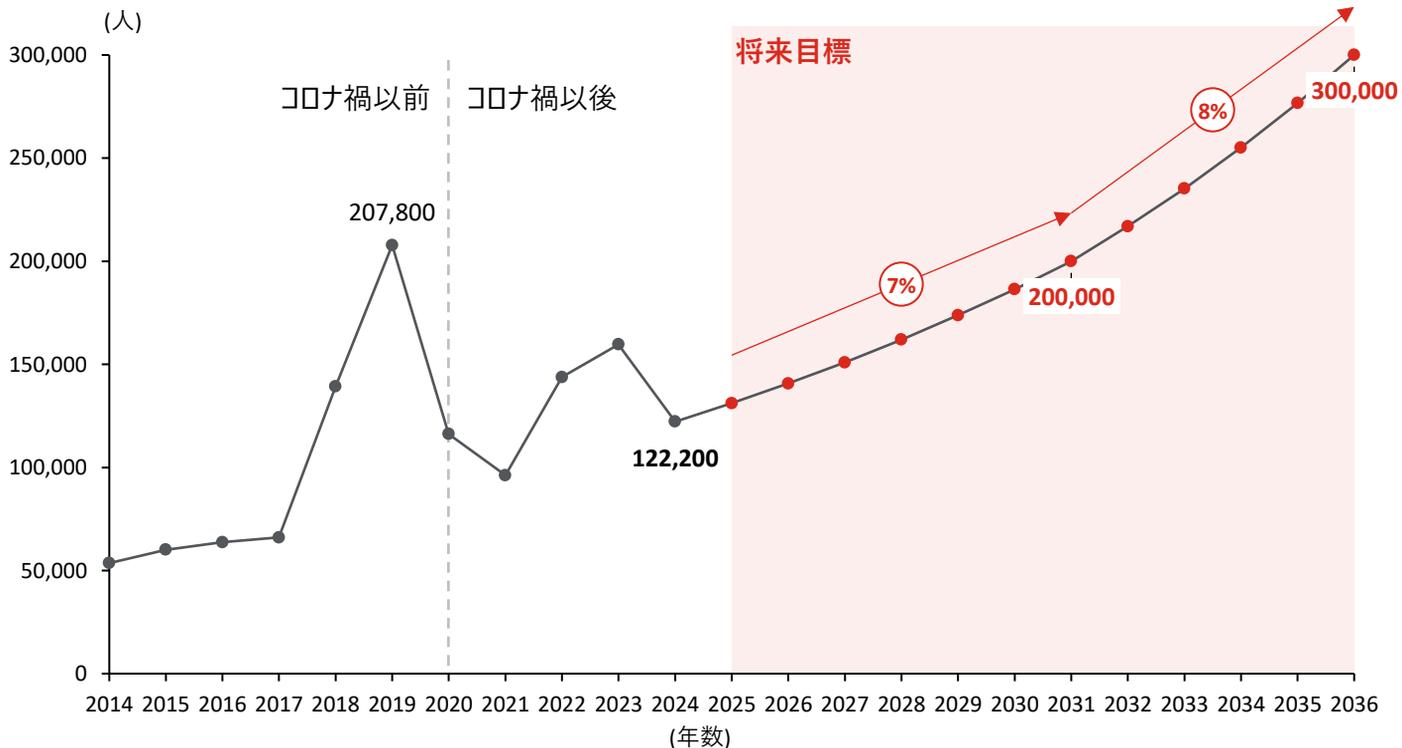


～計画全体の成果目標の設定～

過去10年間の観光入込客数の推移を踏まえた目標値の設定



過去10年間の宿泊者数の推移を踏まえた目標値の設定



～計画及び成果目標の進捗管理～

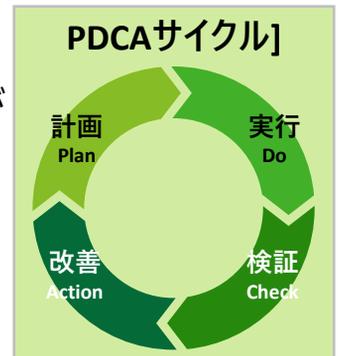
最上位目標指標は、5年後(2031年)に中間目標の達成状況を確認し、未達成の場合は、10年後の目標達成に向けて必要な施策の見直しや追加を行います。早期達成が見られる場合は、上方修正含めて適切に目標値を見直し、地に足のついた観光振興を展開していきます。

計画期間は、2026年から2036年の10年間としますが、近年の外部環境とそれに伴う人々のニーズの変化の速さに対応するため、毎年、施策ごとの評価・振り返りから改善に繋げるPDCAサイクルに基づき進捗管理を行います。

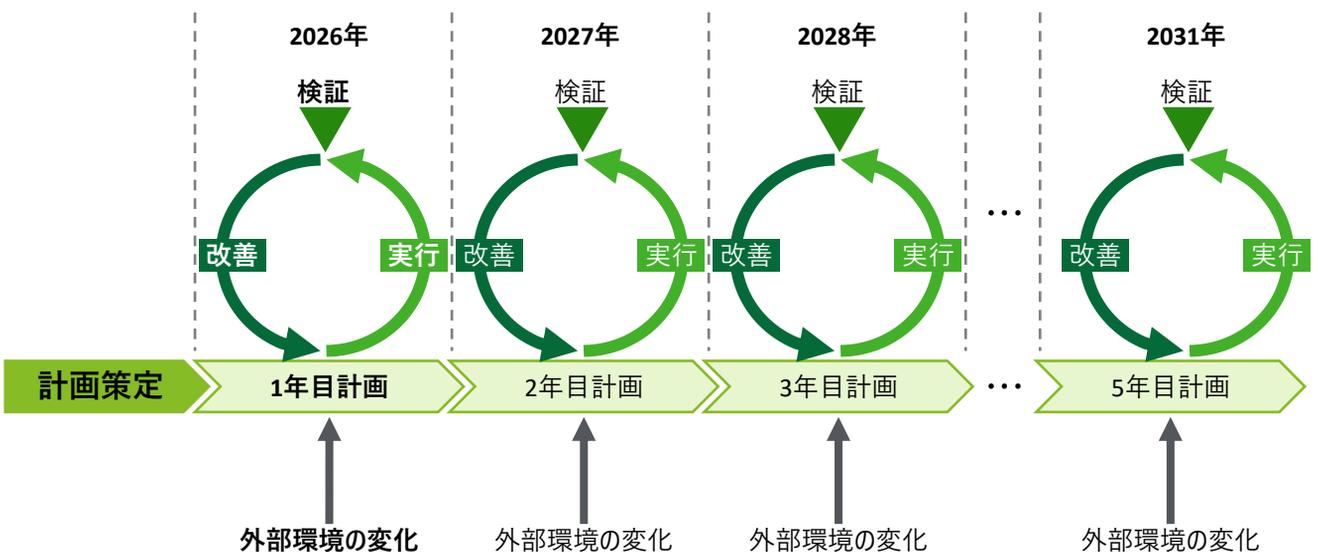
現状設定している数値は、長野県が実施している統計調査結果を用いていますが、本計画を実行していくにあたって、町独自のデータ取得についても検討しており、その結果を踏まえて数値は適切なタイミングで見直しを図ることとします。

計画の進捗管理は、町民、地域団体、観光関係事業者からなる会議体で行うことにより、南木曾町一体となって計画の推進を図ります。そして、会議体では進捗管理以外にも、観光に関する様々なアイデアや課題に対する解決策を検討・実行することで、南木曾町の持続可能な観光の推進を目指します。

※(参考) PDCAサイクルとは、Plan(計画)、Do(実行)、Check(測定・評価・検証)、Action(改善)の行程を一方方向に回すことで、マネジメントの品質を高めることができ、より良い成果が期待できます。



～進捗管理の方法～

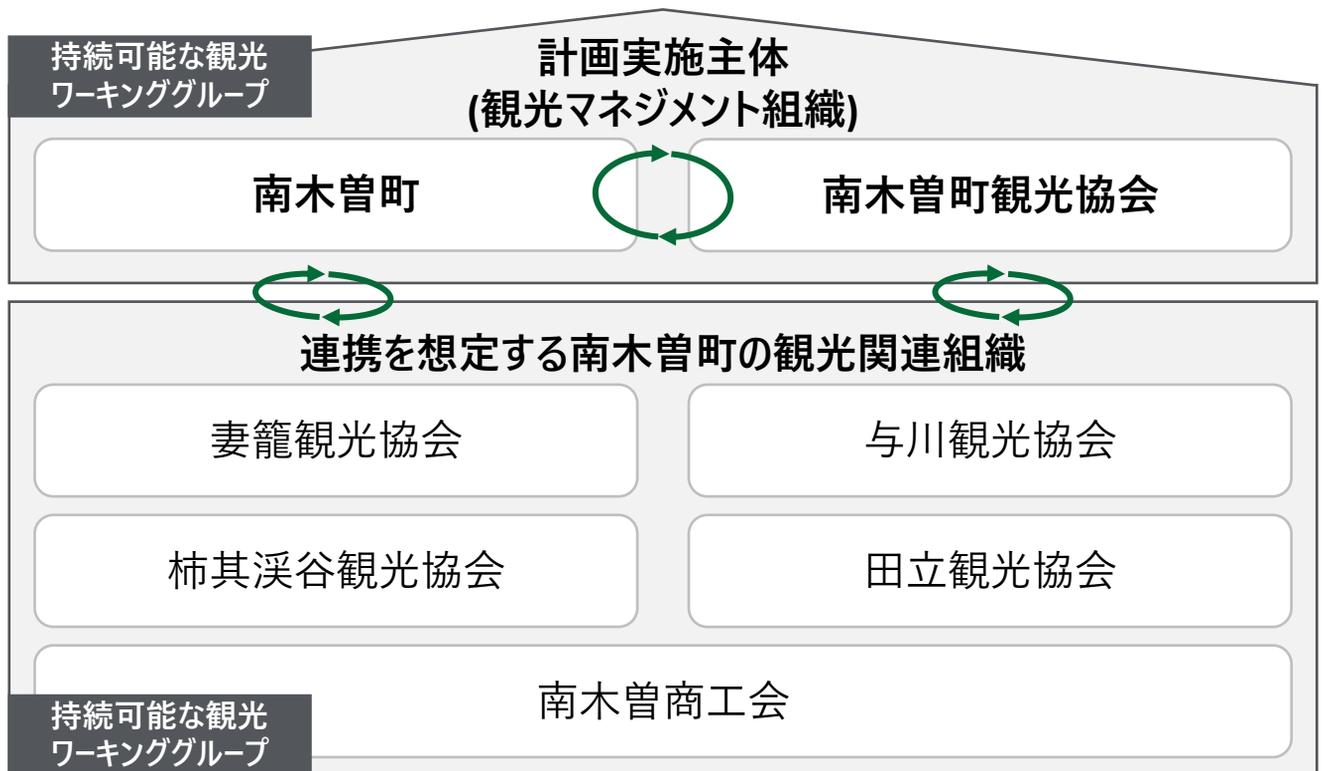
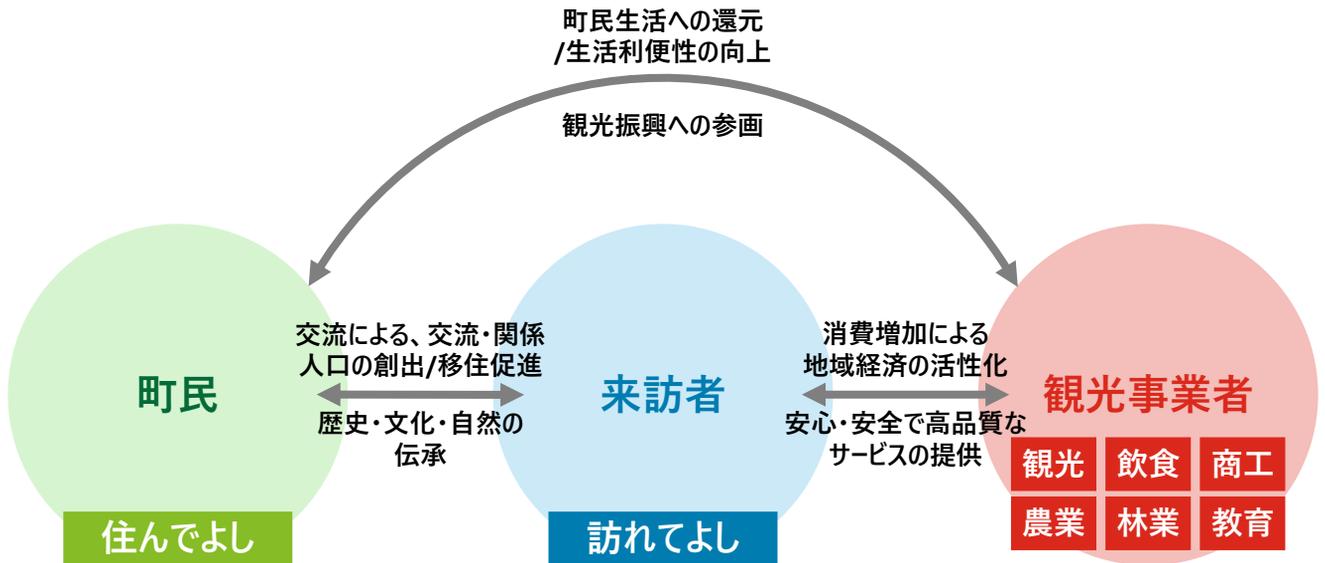


第5章：アクションの実行を後押しする 組織と取組、財源

～アクションの実行を後押しする組織と財源～

本計画は、南木曾町及び南木曾町観光協会が実施主体として推進していきますが、町内外の観光事業者・商工関係・農林業関係・教育機関や町民の皆様にもそれぞれの立場で観光に関係していただけるような連携体制を構築してまいります。

また、関係機関が適切に連携を図っていくことで、来訪者・観光事業者・町民の3者の好循環を実現し、多様な視点での持続可能な観光地を目指していきます。



その他連携組織

長野県/木曾広域連合/妻籠を愛する会
 /南木曾山士会/南木曾ろくろ工芸協同組合/蘭桧笠生産共同組合
 /田立和紙保存振興会/田立花馬祭り保存会/南木曾町ねこ生産組合

■計画実施主体(観光マネジメント組織)

- 南木曾町および南木曾町観光協会は、本計画の実施主体を担う組織となり、持続可能な観光地づくりを推進していきます。また、計画の具体的なアクションの実施主体だけでなく、「観光地経営」の視点に立って、計画の進捗管理(KGI管理など)やマーケティング等に基づく観光地マネジメントを推進します。
- 具体的なアクションを実施していくにあたっては、南木曾町の観光関連組織やその他連携組織に加えて、町内の観光事業者とも密に連携してまいります。

■持続可能な観光ワーキンググループ

- 重点プロジェクト1-1で言及したとおり、町内の関係者を広く巻き込んで持続可能な観光ワーキンググループを組成し、観光地マネジメント体制を強化します。
- ワーキンググループでは、観光マネジメント組織から町内のステークホルダーに向けて、計画の進捗や観光政策の共有などを行うほか、町内の観光課題などを広く情報収集し、関係者が一丸となって同じ目線に立って観光推進を行うことを目指します。

■連携を想定する南木曾町の観光関連組織

- 連携を想定する南木曾町の観光関連組織は、具体的なアクションの実施において計画実施主体と密に連携する、重要な役割を担う組織として位置付けています。
- 各観光関連組織は、主には管轄するエリアや業務に基づいて具体的なアクションの実施のために連携し、計画実施主体を支援します。加えて、今後詳細の検討が必要な事項や将来的な計画の更新においても、計画実施主体と連携を図ります。

■その他連携組織

- その他連携組織は、産業(伝統工芸等)・文化保全や町内外との広域連携が必要な場合において、強く連携を図る組織として位置付けています。
- ろくろ工芸、蘭絵笠、田立和紙などの南木曾町の代表的な工芸・文化、長野県や木曾地域の他自治体との連携に関連する具体的なアクションを実施する上での計画実施主体や南木曾町の観光関連組織との連携を想定しています。

～アクションの実行を後押しする組織と財源～

本計画で設定した具体的なアクションを推進していくためには、継続的に多くの予算が必要となります。そこで、重点プロジェクト5として「持続可能な財源の確保」を設定し、財源の確保に向けた取組を加速させていきます。

これまでも、町独自の観光予算のほか、観光庁補助事業や各種交付金など、さまざまな財源を活用してきましたが、今後も重点プロジェクト5を軸に、観光庁が示す自主財源開発手法ガイドブックや他地域の先進事例を参考にしながら継続的で安定的な財源の確保に向けて検討していきます。

財源の確保に向けた活動例

<活動>

<具体例>

活動①

地域全体としての
観光財源を増やす

✓宿泊/入湯税、ふるさと納税による財源の確保

下呂市の事例(概要)

入湯税：150円
(年間約1億5千万円)



活動②

国の制度を活用する

✓観光庁をはじめとする国の補助金や交付金などの公的支援の活用による財源の確保

- 運営費補助：公益性のある事業を行う団体などの運営に必要な基礎的な経費を補助する
- 事業費補助：国や自治体の施策を推進する動機づけや目的の達成に必要な事業の補助経費を補助する

活動③

会費収入や寄付金を増やす

✓会費収入やクラウドファンディングなどの寄付金による財源の確保

- クラウドファンディングは、インターネットを使って不特定多数の個人・団体から小口資金を集める資金調達の仕組みです。クラウドファンディングには、「寄附型」「購入型」「融資型」等の種類があります。

活動④

収益事業を強化する

✓物販事業や旅行商品の販売などの収益事業による財源の確保

- 観光庁が公開するガイドブックでは、収益事業の種類として、以下の5事業が挙げられています。
- ✓①物販事業、②旅行業、③イベント事業、④有料施設等の運営事業、⑤地域活性化事業

活動⑤

地域金融機関との連携

✓地域金融機関や地方創生関連のファンドからの借入や出資の受入れによる財源の確保

- 同ガイドブックでは、金融機関との連携による資金調達手段として、以下の3種類が挙げられています。
- ✓①融資制度、②地域金融機関からの融資、③ファンド活用

出所：観光庁 観光地域づくり法人(DMO)における自主財源開発手法ガイドブック